

嘉麻市教育委員会 点検・評価報告書

(平成30年度事業分)



令和元年8月

嘉麻市教育委員会

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条及び嘉麻市教育基本条例第7条の規定に基づき、平成30年度の教育委員会の点検及び評価を行いましたことを報告します。

嘉麻市教育委員会委員名簿

令和元年8月現在

職 名	氏 名	任 期
教育長職務代理者	豊 福 眸 子	平成30年7月 4日 ～ 令和4年7月 3日
委 員	佐 竹 正 利	平成29年7月 4日 ～ 令和3年7月 3日
委 員	辻 田 喜 美	平成28年8月29日 ～ 令和2年8月28日
委 員	犬 丸 隆 行	令和 元年7月 4日 ～ 令和5年7月 3日

目 次

1. 教育委員会点検・評価の概要について	1
(1) はじめに	1
(2) 点検・評価の導入の目的	1
(3) 点検・評価する対象	1
(4) 点検・評価の方法	1
(5) 結果の取扱い	2
(6) 嘉麻市教育行政の基本理念	2
(7) 嘉麻市教育振興基本計画	2
「第4次嘉麻市教育アクションプラン（平成30年度～令和2年度）」	
2. 教育委員会の取組	3
(1) 平成30年度教育委員会実施状況	3
(2) 平成30年度教育委員会の会議における議案	3
(3) 平成30年度教育委員会の会議における報告	5
3. 各種学校調査の結果	7
4. 事業別評価結果	10
■主要施策1 少人数指導等による学力向上	14
■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実	18
■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進	36
■主要施策4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進	52
■主要施策5 体力及び運動能力向上の推進	61
■主要施策6 人権尊重精神を育成する教育の推進	67
■主要施策7 市民文化の創造	71
5. 全体評価結果	78
《資料》	
・ 嘉麻市教育委員会点検評価実施要綱	83
・ 令和元年度嘉麻市教育委員会点検評価委員名簿	85

1. 教育委員会点検・評価の概要について

(1) はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）の一部改正及び嘉麻市教育基本条例の制定により、平成20年4月から、嘉麻市教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しています。

(2) 点検・評価の導入の目的

教育委員会制度は、首長から独立した合議制の教育委員会が決定する教育行政に関する基本的方針のもと、教育長及び事務局が広範かつ専門的な具体的教育行政事務を執行するものです。

このため、事前に教育委員会が立てた基本方針にそって、具体的な教育行政が執行されているかどうかについて、教育委員会自らが事後にチェックする必要があり、教育委員会が地域住民に対する説明責任を果たし、その活動を充実させることが目的です。

(3) 点検・評価する対象

第4次嘉麻市教育アクションプラン（平成30年度～令和2年度嘉麻市教育振興基本計画）の事業を対象とします。

(4) 点検・評価の方法

事業ごとに目標達成度の観点から自己評価を行い、点検・評価の客観性を確保するために第三者評価を行いました。

第三者評価については、教育委員や現場教員・事務局職員等ではない人で、教育に関して公正な意見を述べることを期待できる人を想定し、議会、PTA連合会、社会教育委員の会議、公民館運営審議会、図書館協議会、織田廣喜美術館運営協議会、スポーツ推進委員、文化財保護審議会より推薦をいただいた方に依頼し、評価していただきました。

《点検・評価の流れ》

- ① 教育委員会事務局（担当課）においてその所管する事務事業等を自己評価
- ② 自己評価の結果について評価の客観性を確保するため、嘉麻市教育委員会点検評価委員を設置し、自己評価に対しての評価
- ③ 教育委員会は評価委員の意見を踏まえ、教育委員会の会議において最終的な点検評価
- ④ 議会へ報告
- ⑤ 議会報告後、速やかにホームページ等で一般公表

(5) 結果の取扱い

この点検・評価においては、事業ごとに4段階【A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要】で評価し、評価の高い事業については引き続き実施し、評価の低い事業については課題や問題の解決を行うと同時に、事業の見直しについて検討していく予定です。

(6) 嘉麻市教育行政の基本理念

嘉麻市教育委員会では、嘉麻市教育基本条例第2条の基本理念に基づき、本市の教育行政を実施していきます。

嘉麻市教育基本条例(抜粋)

(基本理念)

第2条 教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び地域社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な市民の育成を期して行われなければならない。

2 市民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。

3 家庭、地域住民及び市は、前2項に定める基本理念の実現に努めるものとする。

(7) 嘉麻市教育振興基本計画

「第4次嘉麻市教育アクションプラン（平成30年度～令和2年度）」

嘉麻市教育委員会では、教育行政の基本理念に基づき、本市における教育振興のための施策に関し基本的な事項を定めた「第4次嘉麻市教育アクションプラン」を策定し、学校教育、社会教育、文化・芸術の各分野における7つの教育施策を柱として、その実現に向けた施策を推進しました。

1. 少人数指導（1学級を30人以下の児童又は生徒で編成する等の指導形態をいう。）等による学力向上
2. 個性又は能力を育成する学校教育の充実
3. 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
4. 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進
5. 体力及び運動能力向上の推進
6. 人権尊重精神を育成する教育の推進
7. 市民文化の創造

この7つの施策に基づく事業を対象に、点検・評価を実施しました。

* 第4次嘉麻市教育アクションプラン（平成30年度～令和2年度 嘉麻市教育振興基本計画）は、以下のホームページにてご覧いただけます。

「嘉麻市教育アクションプラン」

<http://www.city.kama.lg.jp> ・ ・ ・ 嘉麻を知る→嘉麻市教育委員会→教育総務係

2. 教育委員会の取組

(1) 平成30年度教育委員会実施状況

教育委員会は教育長を含む5名の委員で構成され、会議の実施については、原則、定例会が毎月1回、臨時会は必要に応じて開催し、教育行政に関する重要事項等を適時適切に慎重に審議しています。

また、嘉麻市教育委員会定例学校訪問実施要項に基づき、定例学校訪問を実施しています。小中学校を訪問することで、学校教育現場の状況を確認することができ、教育委員の立場から要望など意見を述べました。

◆平成30年度教育委員会開催実績

- ・ 定例会 12回
- ・ 臨時会 4回 計 16回

◆平成30年度嘉麻市教育委員会学校訪問の実施状況

- ・ 定例学校訪問（2校）

嘉麻市教育委員会が各学校における学校経営の諸課題を把握するとともに、改善に向けた方向性について、協議及び所要の指導・支援を行うことにより、学校力を向上させる取組です。

実施日：平成30年10月25日（木） 学校名：碓井小学校
 平成30年11月 6日（火） 学校名：碓井中学校

(2) 平成30年度教育委員会の会議における主な議案

番号	議 案	開催日
1	嘉麻市学校評議員の委嘱について	6/5
2	嘉麻市学校関係者評価委員の委嘱について	6/5
3	嘉麻市学校給食運営審議会委員の委嘱について	6/5
4	嘉麻市学校施設整備基本計画（改訂版）の策定について	6/5
5	嘉麻市教育委員会委員長の選任について	6/26
6	嘉麻市教育委員会委員長職務代理者の選任について	6/26
7	嘉麻市類似公民館施設の設置に関する規則等の一部を改正する規則について	6/26
8	嘉麻市スポーツ推進審議会条例施行規則について	6/26
9	嘉麻市いじめ問題対策推進協議会条例施行規則について	6/26
10	嘉麻市いじめ問題調査委員会条例施行規則について	6/26
11	嘉麻市学校施設整備審議会条例施行規則について	6/26
12	嘉麻市学力向上推進プロジェクト協議会条例施行規則について	6/26
13	嘉麻市就学指導委員会条例施行規則について	6/26

14	嘉麻市奨学資金貸付審議会規則について	6/26
15	嘉麻市立学校施設開放運営協議会規則について	6/26
16	嘉麻市公民館運営審議会規則について	6/26
17	嘉麻市社会教育委員会議規則について	6/26
18	嘉麻市青少年問題協議会規則について	6/26
19	嘉麻市文化財保護審議会規則について	6/26
20	嘉麻市図書館協議会規則について	6/26
21	嘉麻市下山田小学校白馬ホール条例施行規則の一部改正について	6/26
22	嘉麻市立織田廣喜美術館運営協議会規則について	6/26
23	嘉麻市例規等内容精査に伴う教育委員会規則の整備に関する規則について	6/26
24	嘉麻市立小・中学校管理規則の一部を改正する規則について	6/26
25	嘉麻市学校施設整備基本方針について（諮問）	6/26
26	平成31年度使用中学校「特別の教科 道徳」教科用図書の採択について	8/7
27	平成31年度使用小学校用教科用図書（道徳を除く）の採択について	8/7
28	嘉麻市教育委員会点検・評価報告（平成29年度事業分）について	8/24
29	嘉麻市小中一体型校施設整備協議会条例施行規則について	8/24
30	嘉麻市スポーツ推進審議会委員の委嘱について	9/4
31	嘉麻市立図書館基本計画について（諮問）	9/4
32	嘉麻市学力向上推進プロジェクト協議会委員の委嘱について	10/2
33	嘉麻市立学校施設の開放に関する条例施行規則の一部を改正する規則について	10/2
34	嘉麻市小中一体型校施設整備基本方針策定について	10/2
35	碓井中学校区小中一体型校施設整備基本計画について（諮問）	10/2
36	稲築中学校区小中一体型校施設整備基本計画について（諮問）	10/2
37	嘉麻市教育委員会教育長職務代理者の指名について	11/6
38	嘉麻市公の施設に係る指定管理者の候補者の選定について	11/6
39	嘉麻市立嘉穂小学校及び嘉穂中学校通学対策費補助金交付規則及び嘉麻市公民館類似施設等補助金交付規則の一部を改正する規則について	11/6
40	嘉麻市立学校施設の開放に関する条例施行規則の一部を改正する規則について	1/9
41	教育財産の処分について	2/5
42	嘉麻市立図書館基本計画策定について	3/25
43	嘉麻市教育委員会事務局組織規則等の一部を改正する規則について	3/25

(3) 平成30年度教育委員会の会議における主な報告

番号	報 告	開催日
1	嘉麻市スポーツ推進審議会委員の委嘱に関する臨時代理について	4/2
2	嘉麻市スポーツ推進委員の委嘱に関する臨時代理について	4/2
3	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	4/2
4	嘉麻市社会教育委員の委嘱に関する臨時代理について	5/1
5	嘉麻市文化財保護審議会委員の委嘱に関する臨時代理について	5/1
6	嘉麻市図書館協議会委員の委嘱に関する臨時代理について	5/1
7	嘉麻市奨学資金貸付審議会委員の委嘱に関する臨時代理について	5/1
8	嘉麻市奨学資金貸付審議会の諮問及び答申に関する臨時代理について	5/1
9	嘉麻市学校情報機器整備計画検討会議設置要綱について	5/1
10	嘉麻市学校施設整備基本計画（改訂版）（案）について	5/1
11	平成29年度嘉麻市立中学校卒業生の進路報告について	5/1
12	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	5/1
13	嘉麻市立織田廣喜美術館運営協議会委員の委嘱に関する臨時代理について	6/5
14	嘉麻市公民館運営審議会委員の委嘱に関する臨時代理について	6/5
15	嘉麻市社会教育委員の委嘱に関する臨時代理について	6/5
16	平成30年6月議会上程議案について	6/5
17	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	6/5
18	嘉麻市特別教員規程の一部を改正する訓令について	6/26
19	嘉麻市立小・中学校共同学校事務室に関する規程について	6/26
20	嘉麻市例規等内容精査に伴う教育委員会告示の整備に関する告示について	6/26
21	嘉麻市例規等内容精査に伴う教育委員会訓令の整備に関する訓令について	6/26
22	嘉麻市スポーツ推進審議会公募委員の募集について	6/26
23	嘉麻市公の施設指定管理者審査委員会の諮問に関する臨時代理について	8/7
24	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	8/7
25	嘉麻市体育協会補助金等交付要綱の一部を改正する要綱について	8/24
26	全国学力・学習状況調査の結果について	8/24
27	平成30年度中学校総合体育大会の結果について	8/24
28	平成30年9月議会上程議案等について	8/24
29	嘉麻市学校施設整備基本方針（答申）及びパブリックコメントについて	9/4
30	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	9/4

31	嘉麻市いじめ問題対策推進協議会委員の委嘱に関する臨時代理について	10/2
32	「嘉飯圏域定住自立圏形成協定に基づく圏域内図書館相互利用に関する協定」締結について	10/2
33	嘉麻市立図書館管理運営規則の一部を改正する規則を定めることに関する臨時代理について	10/2
34	嘉麻市立図書館資料団体貸出要綱を廃止する要綱について	10/2
35	嘉麻市社会教育施設等使用料の減免に関する要綱の一部を改正する要綱について	10/2
36	図書館資料の弁償に関する要綱の一部を改正する要綱について	10/2
37	嘉麻市スポーツ推進委員被服貸与要綱について	10/2
38	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	10/2
39	嘉麻市文化財保護事業補助金交付規程等の一部を改正する告示について	11/6
40	嘉麻市就学援助費交付認定規程及び嘉麻市特別支援教育就学援助費交付認定規程について	11/6
41	環境ポスターの制作及び審査要綱について	11/6
42	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	11/6
43	平成30年12月議会上程議案について	12/5
44	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	12/5
45	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	1/9
46	小中一体型校施設整備事業について	1/9
47	嘉麻市いじめ防止基本方針改訂版（案）について	2/5
48	小中一体型校における教室形状について	2/5
49	嘉麻市立図書館基本計画（案）について	2/5
50	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	2/5
51	小中一体型校施設整備事業及び熊ヶ畑小学校関連工事進捗状況について	3/1
52	平成31年3月議会上程議案について	3/1
53	生徒指導上の諸問題に関する実態調査「月例報告」について	3/1
54	嘉麻市適応指導教室設置規程の一部を改正する告示について	3/25
55	嘉麻市教育センター臨時任用職員の任用資格等に関する規程及び嘉麻市教育センター運営委員会規程の一部を改正する訓令について	3/25
56	嘉麻市特別教員規程の一部を改正する訓令について	3/25
57	嘉麻市解放子ども会フィールドワーク補助金交付規程を廃止する告示について	3/25
58	嘉麻市解放子ども会事業補助金交付規程について	3/25

59	嘉麻市立図書館相互貸借要綱について	3/25
60	平成31年度教職員の人事（内示）について	3/25

3. 各種学校調査の結果

まず、はじめに嘉麻市内各小中学校における、少人数指導特別教員、特別支援学級介助員・支援員等の配置状況をまとめました。平成29年度と比べ、少人数指導特別教員の配置については1名増員、特別支援学級介助員、支援員は1名増員、特別支援教育補助教員は2名減員となりました。少人数指導特別教員の増員は、児童生徒の増加によるものです。

今後も学習支援の環境の充実と、個に応じた適切な支援を図っていきます。

○小中学校（全13校）における、特別支援学級介助員等の配置数

No.	点検・評価項目	内 容	H29	H30
1	少人数指導特別教員の配置	少人数授業の指導を行うために市費で雇用	21名	22名
2	特別支援学級介助員・特別支援学級支援員の配置	肢体不自由な児童生徒の介助や特別支援学級に在籍する児童生徒の支援を行うために市費で雇用	24名	25名
3	特別支援教育補助教員の配置	普通学級に在籍している特別支援の必要な児童生徒の指導等を行うために市費で雇用	19名	17名

次に示すのは、各小中学校で行われた、教育課程実施状況及び教育課程編成状況調査結果（No.1～No.4）全国学力・学習状況調査における児童生徒質問紙の結果（No.5～No.9）を集計し、学校の取組、児童生徒の学習状況等について、平成29年度から平成30年度を併記して比較したものです。

各小中学校の教育課程実施状況等の結果（No.1～No.4）からは、学習の場の設定と指導方法の工夫が積極的に図られていることが伺えます。具体的には、「基礎基本の定着を図る学習」や、学習した内容の未消化部分をなくすための「補充学習」が1校を除く全ての学校において実施されています。また、「発展学習」にも1校を除く全ての学校が取組んでおり、身につけた基礎的な知識や技能を活用して、思考力・判断力・表現力を育てる学習が実施できているものととらえます。さらに、「きめ細かな指導の実施」については、全ての学校で個の課題や習熟度に応じた分割授業や複数の教員が協働的に指導するチームティーチング授業が、ねらいに応じて展開されていることが読み取れます。

次に、全国学力・学習状況調査における児童生徒質問紙の結果（No.5～No.9）では、「食習慣の安定」について、小中学校とも低下しています。両者とも平均には達しておらず、自分の食生活を見つめ、改善しようとする食に関する指導や保護者啓発の継続が必要です。また、「自己肯定感」については、小中学校とも上昇し、小中学校とも平均に近づきつつあり、引き続き自尊感情を高める取組が必要です。

「家庭での学習習慣」は、小中学校ともに上昇が見られ、各学校における取組の成果が伺えます。そして、近年の児童生徒を取り巻く状況が大きく変化している中、「携帯電話・スマートフォンの所持率及び使用時間」が急増するとともに、活字離れの傾向も強くなっています。平日に「読書を全くしない」児童生徒の割合は、中学校では改善が見られましたが、小学校では増加しています。このことについては、「読書の日」に係る指導を強化し、読書活動を推進していく必要があります。

以上のような調査結果から、学習支援環境充実のための人的配置の継続及び効果的な活用と、児童生徒の実態に応じたきめ細かな指導を今後も強化していくことが肝要であると考えます。

○小学校 8校 *学校・児童質問紙から ()は平成30年度の国・県の平均値

No.	点検・評価項目	内 容	H29	H30
1	基礎基本の定着	基礎的、基本的な知識や技能の徹底を図る時間を設定している学校	8校	8校
2	補充学習の指導	教科の学習時間に補充学習を行っている学校	8校	8校
3	発展学習の指導	教科の学習時間に発展学習を行っている学校	8校	8校
4	きめ細かな指導の実施	少人数指導（チームティーチングを含む）を行った学校	8校	8校
	内訳：分割授業	課題別・習熟度別に分割授業を行った学校	8校	8校
	内訳：非分割授業	学習集団を分けずに、チームティーチングによる授業を行った学校	8校	8校
5	食習慣の安定	朝食を毎日食べている児童 (国 94.5%、県 92.4%)	89.9%	89.0%
6	自己肯定感	自分にはよい所があると思う児童 (国 84.0%、県 84.3%)	67.3%	82.2%
7	家庭での学習習慣	家で学校の宿題をしている児童 (国 97.1%、県 96.9%)	92.3%	95.9%
8	携帯電話等の使用状況	携帯電話で通話やメールをしている児童 (国 63.2%、県 66.5%) ※H29年度	67.6%	
9	読書の習慣	家や図書館で全く読書をしない児童 (国 18.7%、県 21.4%)	20.2%	25.5%

○中学校 5校

()は平成30年度の国・県の平均値

No.	点検・評価項目	内 容	H29	H30
1	基礎基本の定着	基礎的、基本的な知識や技能の徹底を図る時間を設定している学校	5校	4校
2	補充学習の指導	教科の学習時間に補充学習を行っている学校	5校	5校
3	発展学習の指導	教科の学習時間に発展学習を行っている学校	4校	4校
4	きめ細かな指導の実施	少人数指導（チームティーチングを含む）を行った学校	5校	5校
	内訳：分割授業	課題別・習熟度別に分割授業を行った学校	5校	5校
	内訳：非分割授業	学習集団を分けずに、チームティーチングによる授業を行った学校	5校	4校
5	食習慣の安定	朝食を毎日食っている生徒 （国 91.9%、県 90.2%）	90.1%	87.8%
6	自己肯定感	自分にはよい所があると思う生徒 （国 78.8%、県 79.0%）	63.8%	76.3%
7	家庭での学習習慣	家で学校の宿題をしている生徒 （国 91.6%、県 92.8%）	85.1%	93.4%
8	携帯電話等の使用状況	携帯電話で通話やメールをしている生徒 （国 83.6%、県 84.8%）※H29年度	83.6%	
9	読書の習慣	家や図書館で全く読書をしない生徒 （国 32.9%、県 37.2%）	44.0%	37.5%

4. 事業別評価結果

■主要施策1 少人数指導等による学力向上

施策の内容	番号	事業名	A	B	C	D
(1) 確かな学力向上のための取組の推進	1	少人数指導推進事業	○			
	2	学力検証事業	○			
	3	嘉麻市学力向上強化プロジェクト事業	○			
	4	研究指定校補助事業	○			

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

施策の内容	番号	事業名	A	B	C	D
(1) 子どものニーズに応じる教育の充実	5	特別支援教育総合推進事業	○			
	6	補助教員配置事業	○			
(2) 社会の変化に対応する教育の充実	7	英語コミュニケーション能力の育成事業	○			
	8	情報教育推進事業	○			
	9	情報教育施設整備事業	○			
	10	人と自然が共存する環境教育の推進	○			
(3) 信頼される教員の確保と研修の充実	11	嘉麻市教育センター研修推進事業	○			
(4) 安心して学べる学校づくりの推進	12	学校防犯体制整備事業	○			
	13	通学対策事業	○			
(5) 学校施設整備の推進	14	学校施設維持管理業務事業	○			
	15	大隈城山校維持管理事業	○			
	16	学校施設整備事業	○			
(6) 地域に開かれた学校づくりの推進	17	学校関係者評価事業	○			
	18	学校開放事務事業	○			
(7) 小中連携教育への取組	19	小中連携教育推進事業	○			
	20	小中連携・一貫教育研究事業		○		
(8) 教育の機会均等の促進	21	就学援助事業	○			
	22	奨学金事業		○		

■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

施策の内容	番号	事業名	A	B	C	D
(1) 道徳性と自立心を養う心の教育の充実	23	道徳教育推進事業	○			
	24	キャリア教育推進事業	○			
	25	ボランティア活動推進事業	○			
(2) 健やかな心身をはぐくむ健康教育の充実	26	学校保健事業		○		
	27	学校給食運営事業	○			
	28	学校給食費算定及び収納事業	○			
(3) 家庭・地域・学校における読書活動推進	29	読書活動推進事業		○		
(4) いじめ・不登校問題等の解決に向けた体制の充実	30	適応指導教室(れすとぴあ)推進事業	○			
	31	教育相談推進事業	○			
	32	学校支援相談員配置事業	○			
(5) 家庭・地域の教育力を高める支援体制の充実	33	地域教育資源・人材活用事業		○		
	34	学校と地域が連携して子どもを育む事業	○			
	35	家庭教育支援事業		○		
	36	青少年健全育成事業	○			
(6) 男女共同参画教育の推進	37	学校における男女共同参画推進事業	○			
	38	地域社会における男女共同参画推進事業	○			

■主要施策4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

施策の内容	番号	事業名	A	B	C	D
(1) 生涯学習関係機関、団体との連携・協力体制の整備	39	社会教育関係団体等育成事業		○		
(2) 学習機会の提供及び学習成果の活用促進	40	社会教育施設整備事業		○		
	41	生涯学習推進事業	○			
	42	青少年体験活動推進事業	○			
	43	公立公民館・自治公民館連携強化推進事業		○		
	44	公民館活動活性化推進事業	○			
(3) 図書館の利用促進	45	図書館施設管理運営事業		○		
	46	読書活動推進事業	○			
	47	図書ボランティア養成及び活動支援事業	○			

■主要施策5 体力及び運動能力向上の推進

施策の内容	番号	事業名	A	B	C	D
(1) スポーツによる地域の活性化	48	スポーツコミュニティ創造事業	○			
	49	スポーツ大会誘致・スポーツ大会支援事業	○			
(2) スポーツ環境の整備	50	スポーツ環境創成事業		○		
	51	社会体育施設管理運営事業	○			
(3) 生涯スポーツの推進	52	プロジェクトK事業	○			
(4) 競技スポーツの推進	53	競技スポーツ推進事業	○			

■主要施策6 人権尊重精神を育成する教育の推進

施策の内容	番号	事業名	A	B	C	D
(1) 学校教育における人権・同和教育の推進及び支援	54	人権・同和教育推進事業		○		
(2) 社会教育における人権・同和教育の推進及び支援	55	人権・同和教育推進事業		○		
	56	人権・同和教育推進少年団体育成事業		○		
	57	人権・同和教育推進団体育成事業		○		

■重要課題7 市民文化の創造

施策の内容	番号	事業名	A	B	C	D
(1) 美術に関する創造的活動の推進	58	文化芸術活動推進事業	○			
	59	美術館運営管理事業	○			
	60	企画展事業	○			
	61	美術教育普及事業	○			
(2) 文化財の保護・継承・活用	62	郷土の歴史文化を守る事業		○		
	63	郷土の歴史文化を伝える事業		○		
	64	郷土の歴史文化拠点施設活用事業		○		

☆点検評価表の見方☆

事業名 (予算/決算)	[番号] 事業名 (課 : 係) (予算 : 千円 / 決算 : 千円)				
目 的	事業の目的について記載しています。				
事業内容	平成30年度に実施した事業について記載しています。				
平成30年度の課題と取組	【課題等】 平成30年度の課題としてあげた事項等を記載しています。 【課題等への取組み】 上記の課題について、どのような取組を行ったかを記載しています。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性				
	事業の効果				
	事業の効率性				
	【自己評価の根拠】 自己評価に至った理由について記載しています。 また、評価の指標は次のとおりです。 A : 期待どおり B : 概ね期待どおり C : 課題あり D : 事業の見直し要				
今後の方向性	この事業の目的を達成するための方向性について記載しています。				
令和元年度の課題	令和元年度の課題について記載しています。				
【評価委員の意見】 点検評価委員会議でいただいた委員の意見を記載しています。					
教育委員会評価		今回	※		
		(前回)	(※)		

A : 期待どおり、B : 概ね期待どおり、C : 課題あり、D : 事業の見直し要

※点検評価委員の意見を踏まえ、教育委員会で評価しました。

■主要施策 1 少人数指導等による学力向上

(1) 確かな学力の向上のための取組の推進

事業名 (予算/決算)	[1] 少人数指導推進事業（学校教育課：教務係・指導係） (予算：109,582 千円 / 決算：103,915 千円)				
目 的	少人数指導（1学級を30人以下の児童又は生徒で編制する等の指導形態をいう。）により、より個に応じた指導を行うことによって、生徒指導の充実、学力を向上させるよう努めます。				
事業内容	小学校12名、中学校10名の少人数指導特別教員を配置し、小中学校の少人数指導を推進しています。				
平成30年度の課題と取組	【課題等】 少人数指導の利点を最大限に生かせる具体的な手立てを各学校に提示しながら、授業力の向上と児童生徒理解の深化を図ります。 【課題等への取組】 主幹教諭研修会や学力向上研修会において、少人数での一斉授業に加え、単元終末段階における形成的評価をもとにした習熟度別指導の方法を提示しました。また、家庭学習の定着と内容の個別化を推進しました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 小学校においては、単元終末段階における形成的評価をもとにした習熟度別指導の推進を図ることができました。また、家庭学習の時間と課題の量、内容の個別化を推進したり、学力の指標を短期に設定した取組を進めたりして学校を支援しました。その結果、標準学力検査NRT（小学校）の結果は、平成26年度以降標準偏差値50を上回るとともに、2年連続51を上回っています。標準学力分析検査（中学校）の結果も年々上昇しており、標準偏差値に対して（-1.2）にまで縮まりました。 不登校の児童生徒は全国の傾向に反して減少傾向にあり、52名（全国出現率1.47%（H29）に対して嘉麻市出現率1.87%）となっています。				
今後の方向性	少人数指導により、個に応じたきめ細かな指導をさらに充実させます。学力の向上はもとより、児童生徒一人ひとりに向き合う時間を確保し、安心・安全な学習環境を提供します。				
令和元年度の課題	主幹教諭研修会において、個に応じた指導の充実と児童生徒理解の深化を図るために、児童生徒の実態に応じた習熟度別指導の指導形態を提示したり形成的評価をもとにした習熟度別指導の推進を図ったりします。				
【評価委員の意見】 ・意見は特にありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 1 少人数指導等による学力向上

(1) 確かな学力の向上のための取組の推進

事業名 (予算/決算)	[2] 学力検証事業（学校教育課：教務係・指導係） (予算：7,673 千円 / 決算：7,355 千円)				
目的	児童生徒の実態を把握・分析し、課題を明らかにして学校内の組織的な取組みの改善を図り、自ら学び考えるなどの確かな学力を育む教育の充実を図ります。				
事業内容	各種学力検査の結果を分析し、実効性のあるプランと各校のPDCAサイクルを確立します。				
平成 30 年度の課題と取組	【課題等】 学力向上具体策が各学校の各学級に浸透・徹底するよう、「嘉麻市学力向上全体構想」と各学校における各種プランの整合性を図り、運営面での指導助言とともに授業を改善する具体的な内容を指導します。 【課題等への取組】 主幹教諭研修会において、「嘉麻市学力向上全体構想」の説明や各種プランとの整合性を図る場を設定しました。そして、各種プランの具現化に向け、短期検証改善サイクルを好循環させるための支援を継続実施しました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 主幹教諭研修会において、「嘉麻市学力向上全体構想」の説明や各種プランとの整合性を図る場を設定したことで、全体構想に基づいた学力向上具体策が各学校で具現化されました。また、短期検証改善サイクルを回すことで、各種プランの具現化につながっています。その成果として、小学校における標準学力検査NRTの結果は、4年連続して標準偏差値50を超え、2年連続51を上回っています。中学校の標準学力分析検査の結果は、年々上昇し、標準偏差値50にあと1.2まで近づいています。				
今後の方向性	各種調査結果をもとに、児童生徒の学力実態を分析するとともに課題を明らかにして学校内の組織的な取組の改善を図ります。そのために、主幹教諭研修会において、重点的な指導の方向性を明確に提示し学力向上具体策がより具現化されるためのPDCAを推進します。				
令和元年度の課題	主幹教諭研修会において、重点的な指導の方向性を提示するとともに、学力向上具体策を各学校の各学級に浸透・徹底させるためのマネジメントについて演習・協議・指導助言を行います。また、学力向上具体策に基づいた授業に改善していくよう指導助言を行います。				
【評価委員の意見】 ・意見は特にありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 1 少人数指導等による学力向上

(1) 確かな学力の向上のための取組の推進

事業名 (予算/決算)	[3] 嘉麻市学力向上強化プロジェクト事業 (学校教育課：教務係・指導係) (予算：26,147 千円 / 決算：25,503 千円)				
目的	学校への指導及び支援体制をより強化し、学校の組織体制を確立するとともに、嘉麻市土曜未来塾において、基礎基本の学力の定着、家庭学習の習慣化を図り、学力の向上に努めます。				
事業内容	嘉麻市土曜未来塾を市内7箇所において、56人の学習サポーターを活用し、実施しました。また、学力向上推進員（教職員OB）が学校を訪問した際、土曜未来塾の広報及び成果の情報収集を行いました。				
平成30年度の課題と取組	【課題等】 嘉麻市土曜未来塾について、関係各課と連携し、生活困窮家庭の児童生徒を含め更なる参加を促します。また、学校外補習事業との関連も整理する必要があります。併せて、家庭へのアンケート調査を実施し、家庭学習の習慣化に向けた検証を行う必要があります。 【課題等への取組】 嘉麻市土曜未来塾は、保護課等関係各課と連携し、生活困窮家庭の児童生徒の参加を促しました。また、学校外補習事業も10校とも計画的に推進していききました。家庭へのアンケートを実施し、家庭学習の習慣化に向けた検討を行いました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 嘉麻市土曜未来塾は年間37回程度実施できました。保護者からの「自宅で勉強する習慣がついた」「勉強する時間が増えた」などのアンケート結果から家庭学習の習慣化ができつつあることが伺えます。また、土曜未来塾で学ぶ児童生徒の様子が、運営にあたる5名の学力向上推進員の学校への指導と関連付けられ、効果的な教育活動を展開できる土壌が培われています。また、学校外補習事業も、学校の実態に応じた取組が推進されました。				
今後の方向性	嘉麻市土曜未来塾への参加状況について学校間の格差があるため、今後も更なる事業広報と成果の分析を進めるとともに、学校外補習学習事業との関連も含め、学校教育と放課後等の学習活動を連続して捉えた学力向上方策を検討していきます。				
令和元年度の課題	嘉麻市土曜未来塾への参加状況について学校間の格差があるため、目的や価値を含めた事業広報を進めるとともに、今後も関係各課と連携し、生活困窮家庭の児童生徒を含め更なる参加を促します。また、ヒアリングを通して、学校外補習事業との関連についても指導していきます。				
【評価委員の意見】 意見は特にありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 1 少人数指導等による学力向上

(1) 確かな学力の向上のための取組の推進

事業名 (予算/決算)	[4] 研究指定校補助事業（学校教育課：教務係・指導係） (予算：2,000 千円 / 決算：2,000 千円)				
目的	研究指定事業を通して、教職員の実践的指導力の向上を図るとともに、一人ひとりの資質の向上に向けた研修等への参加支援体制の整備を図ります。				
事業内容	研究指定校を3ヶ年事業として、毎年中学校区単位で委嘱し、3年次に研究発表を行います。平成30年度は、3年目の熊ヶ畑小、上山田小、下山田小、山田中学校が研究成果を広める発表会を実施しました。研究2年目が、嘉穂小、牛隈小、嘉穂中学校、1年目が稲築西小、稲築中学校でした。				
平成30年度の課題と取組	【課題等】 校区としての課題を明らかにし、小中9年間を見通した学びを目指し、学習、生活、仲間づくり等についての指導の在り方を共有しながら、組織的に取組を行うことができるよう指導・支援します。 【課題等への取組】 指導主事を派遣し、小中9年間の学びにつながる授業づくりについての指導助言、授業後の協議等を行いました。また、学習、生活、仲間づくり等の指導の在り方について校区としての課題の共有やそれに伴う取組について指導助言を行いました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 3ヶ年次の研究発表に向けて、校区の課題を明確にし、学習や生活基盤づくりへと具現化を図るような話し合いを持ち、取組を進めることができました。特に、山田中学校区における「かく活動」を位置付けた授業改善への取組が充実してきました。				
今後の方向性	本事業は、学力向上等校区の課題解消を目指し、協働して組織的に児童生徒を教育する良い機会です。今後も、校区における小中9年間をつなぐ取組と小中の連携を強化し、組織的に研修を進めていく必要があります。				
令和元年度の課題	嘉麻市の教育課題を解決していくために、校区としての課題や目的を明らかにし、小中9年間をつなぐ学びを目指します。特に、学習スタンダード、学習規律、家庭学習についての指導の在り方を共有しながら、組織的に取組を行うことができるよう指導・支援します。				
【評価委員の意見】 ・意見は特にありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(1) 子どものニーズに応じる教育の充実

事業名 (予算/決算)	[5] 特別支援教育総合推進事業（学校教育課：教務係・指導係） ※健康課：発達支援連携協議会事業費にて小学校分を予算化 (予算：3,463千円 / 決算：3,181千円)				
目的	保育所（園）・幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校における特別支援教育を総合的に推進することです。				
事業内容	巡回相談や個別の教育相談の実施等、発達障がいを含む障がいのある幼児児童生徒を支援しました。				
平成30年度の課題と取組	【課題等】 途切れない支援が行われるように、就学相談窓口の機能化を図ります。また、個に応じた支援が行われるために、巡回相談の実施による個別の教育支援計画等の充実や特別支援教育に係る共通理解を進めます。 【課題等への取組】 途切れない支援を行うために、嘉麻市教育センターに就学相談窓口を設置し、健康課と協働して、周知のチラシの作成・配布を行いました。「特別支援教育コーディネーター連絡会」を実施するとともに、巡回相談の実施による個別の教育支援計画等の充実や特別支援教育に係る共通理解を進めました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 特別支援教育コーディネーター連絡会を実施したことで、特別支援を要する幼児・児童の早期発見・早期対応に努め、巡回相談の充実や嘉麻市教育センターの就学相談窓口の機能化を図ることができました。「かまっこすくすくファイル」の活用についての共通理解、リーフレットの全戸配布、就学相談窓口の設置と周知等、早期からの支援体制が構築されてきました。小学校巡回相談を通して、適切な支援や指導に向かうことができました。				
今後の方向性	特別支援を要する幼児・児童の早期発見・早期対応に努め、一貫した継続性のある支援に向けて巡回相談の充実や子育て支援課の就学相談窓口の機能化を図ります。健康課、こども育成課との連携を密にし、合理的配慮の提供を充実させます。				
令和元年度の課題	途切れない支援が行われるように、就学相談窓口の機能化を図ります。また、個に応じた支援を行うことができるように、幼小中高の特別支援教育コーディネーターとの情報共有や各種関係機関内の連携を図るとともに、巡回相談の実施による個別の教育支援計画等の充実や特別支援教育に係る共通理解を進めます。				
【評価委員の意見】 ・意見は特にありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(1) 子どものニーズに応じる教育の充実

事業名 (予算/決算)	[6] 補助教員配置事業（学校教育課：教務係・指導係） (予算：92,058 千円 / 決算：85,888 千円)				
目的	特別支援教育充実のための補助教員、介助員、支援員を配置し、一人ひとりのニーズに応じた教育条件の整備を図ります。				
事業内容	補助教員、介助員、特別支援学級支援員を配置し、一人ひとりのニーズに応じた特別支援教育を行いました。				
平成 30 年度の課題と取組	【課題等】 配置した人材が、各学校の状況に応じて適切に活用されているかを把握し、特別な支援を要する児童生徒に、合理的配慮が適切に提供されているか、効果的な運用ができているかを指導します。 【課題等への取組】 教育的ニーズに対応するため、補助教員、介助員、支援員を配置しました。支援の実際を充実させるために嘉麻市教育センター主管で補助教員、介助員、支援員を対象に研修会を実施しました。合理的な配慮が適切に提供できるよう個別の指導計画に基づく支援の提供について指導助言を行ってきました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 特別支援学級に該当しない発達障がいのある児童生徒、通常学級に在籍する支援を要する児童生徒、病気等により日常生活全般及び一部において見守りが必要な児童生徒の支援のために、補助教員 17 名、特別支援学級には、介助員 2 名、支援員 23 名を配置し、児童生徒一人ひとりのニーズに応じた教育支援を実施しました。 個別の指導計画に基づく支援の適切化に向けて、状況把握と評価・改善状況に応じた指導助言を充実させていく必要があります。				
今後の方向性	補助教員等の配置により、教育的ニーズに対応した支援ができています。このことは、特別な支援を必要としない児童生徒との良好な人間関係づくりにも役立っています。インクルーシブ教育システムの構築に向け、適切な支援ができるように努めていきます。				
令和元年度の課題	特別な支援を要する児童生徒に対して、個別の指導計画に基づいた合理的配慮が適切に提供されているか、効果的な運用ができているかを指導します。				
【評価委員の意見】 ・意見は特にありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(2) 社会の変化に対応する教育の充実

事業名 (予算/決算)	[7] 英語コミュニケーション能力の育成事業 (学校教育課：教務係・指導係) (予算：24,843千円 / 決算：23,504千円)				
目的	言語や文化についての体験的理解を深め、英語によるコミュニケーション能力を養い国際感覚を身に付けさせることです。				
事業内容	国際的な共通語として、英語によるコミュニケーション能力の育成や文化についての体験的理解を深めることを目的として、ALT（外国語指導助手）の活用による外国語活動の充実を図ります。				
平成30年度の課題と取組	【課題等】 令和2年度の教科化に向けて、移行期をスムーズに渡れるように、ALTの効果的な活用場面と方法を工夫していきます。 【課題等への取組】 各月末に契約先と情報交換を重ね、指導の状況や課題について協議することで、英語力向上に係る学習指導方針を共有しました。また、嘉麻市教育センター主管研修を実施しました。また、主幹教諭研修会において、教科化に向けた令和元年度（移行期2年目）の外国語活動のカリキュラム作成に向けて資料提供と指導助言を行いました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 ALTを各中学校区に1名配置し、小中学校における外国語教育の充実を図ることができました。ALTとのTT（チームティーチング）による授業により、楽しく学べる授業づくりができています。 研修の効果もあり、外国語活動の授業イメージが共有でき、令和元年度（移行期2年目）のカリキュラム作成も円滑に進みました。				
今後の方向性	児童生徒の英語コミュニケーション能力を育成するために、カリキュラムづくりや教職員の指導力向上に取組み、ALTを効果的に活用した授業を充実させます。				
令和元年度の課題	令和2年度の完全実施に向けて、外国語活動や外国語科のカリキュラム作成、ALTの効果的な活用場面や方法についての研修を実施していきます。				
【評価委員の意見】 ・意見は特にありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策２ 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(２) 社会の変化に対応する教育の充実

事業名 (予算/決算)	[8] 情報教育推進事業（学校教育課：教務係・指導係） (予算：4,716 千円 / 決算：2,163 千円)				
目的	児童生徒がコンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的かつ適切に活用できるようにするため、情報教育の充実を図ります。				
事業内容	嘉麻市教育センターに情報教育推進 I C T 支援員 2 名を配置し、児童生徒の発達段階に応じた情報活用能力の育成、情報モラル教育を行います。				
平成 30 年度の課題と取組	【課題等】 新学習指導要領の内容を具体化した授業づくりを目指して、授業を伴った研修会や情報モラル等に関する研修会が必要です。また、児童生徒が情報手段を適切に活用するために、習得する内容の見直しが必要です。 【課題等への取組】 情報教育推進 I C T 支援員 1 名を配置し、I C T を活用した授業改善、校務の電算化を推進しました。また、教職員に向けた研修を通して、情報モラルに関する内容やスキルアップ等の支援をしました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 教職員に向けた研修において、新学習指導要領の内容であるプログラミング教育や情報モラルに関する内容を含めたことで、これからの情報教育について意識を高めることができました。また、スキルアップのための支援を必要に応じて行うことができました。情報教育モデルカリキュラム（小学校版）を整備し、今後実践によるブラッシュアップを図ります。				
今後の方向性	プログラミング教育に関する授業づくりにつながる研修の実施と支援が必要です。学校ホームページの適切な運営に向けた仕組みづくりを行い、市民に対する学校情報の公開をスムーズに行う必要があります。				
令和元年度の課題	新学習指導要領におけるプログラミング教育に関する研修会が必要です。また情報推進委員会を活性化させるとともに、学校ホームページに対する情報教育推進 I C T 支援員の支援の在り方を見直し、学校ホームページの更新が適切に行われるよう支援を行います。				
【評価委員の意見】 ・意見は特にありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策２ 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(２) 社会の変化に対応する教育の充実

事業名 (予算/決算)	[9] 情報教育施設整備事業（学校教育課：管理係） (予算：53,504 千円 / 決算：53,502 千円)				
目的	コンピューターや情報通信ネットワークなどの情報手段を積極的かつ適切に活用できるように、情報教育を行うための情報機器の整備・維持管理を図ります。				
事業内容	市内小・中・高等学校（14校）のPC教室、校務用PCのリース及びPC教室、校務用PC、教育用PCの保守を行い、情報教育の充実を図ります。				
平成30年度の課題と取組	【課題等】 老朽化した小中学校のPC教室のPC、教育用PC、その他の周辺機器について、年度計画的にリプレイスを行う必要があります。 【課題等への取組】 学校情報機器の整備計画作成のため嘉麻市学校情報機器整備計画検討会議を設置し、学校現場での導入スケジュール及び活用方法についての検討を行いました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 学校情報機器整備計画策定のため嘉麻市情報推進連絡協議会と連携しながら、日々変化する情報教育に対応できるよう嘉麻市の現状に応じたりプレイスの検討を行いました。				
今後の方向性	小中学校のすべての情報機器及び周辺機器について、嘉麻市の情報教育におけるあり方を決定し、児童生徒が積極的に活用できるよう年度計画的にリプレイスを行う必要があります。				
令和元年度の課題	老朽化した学校情報機器のリプレイスについては、PC教室の情報機器を最優先して検討を行う必要があります。				
【評価委員の意見】 ・教育用PCは、「ラズベリーパイ」や「イチゴジャム」など安価なものがあるので、導入を検討されてもよいのではないかと。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(2) 社会の変化に対応する教育の充実

事業名 (予算/決算)	【10】人と自然が共存する環境教育の推進 (学校教育課：教務係・指導係) (予算： ー 千円 / 決算： ー 千円)				
目的	身近な環境や環境問題に興味、関心を持ち、人間活動と環境の関わりについて総合的な理解と認識を育成します。また、環境の保全に配慮した望ましい働きかけのできる技術や思考力、判断力を身に付け、よりよい環境の創造活動に主体的に参加し、環境に対し責任ある行動を取る能力を育成します。				
事業内容	郷土を愛する心を育てるため、小中学校で体験活動を重視した地元の良さに気づき、その環境に触れる教育を推進します。				
平成30年度の課題と取組	【課題等】 身近な環境や環境問題に興味、関心を持ち、地域に働きかける授業づくりを進めます。 【課題等への取組】 「郷土を愛する人材育成」の構想をもとに、地域の「ひと・もの・こと」を活かした、地域に働きかける授業づくりについて指導助言を行いました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 小学校においては、「郷土を愛する人材育成」の構想をもと、総合的な学習を中心に、地域の「ひと・もの・こと」を活かした授業実践が実施されています。また、中学校においては、カリキュラムづくりや学習展開モデルについて指導助言を行いました。 環境課と連携し、市内小学生のポスターを看板にして設置する等の取組を継続しました。				
今後の方向性	嘉麻市の自然環境に触れ、郷土に愛着を持ち、嘉麻市に定住する、または、一旦は嘉麻市を離れても将来戻ってくる人材を育成します。				
令和元年度の課題	身近な環境や環境問題に興味、関心を持ち、地域の「ひと・もの・こと」を活かし地域に働きかける授業づくりや地域の「ひと・もの・こと」をつなぐ「郷土を愛する」カリキュラムづくりを進めます。				
【評価委員の意見】 ・郷土愛を持つことや、嘉麻市に戻ってきたいと思う教育はすごく大事だと思う。 ・学校現場においては、フィールドワークの選択が、やりやすいものを行っている気がする。もっと地域の色々なところに目を向けていただけるような方法を模索してほしい。それぞれの地域の独自性をお互いが学びあって、共有できるような機会を持っていただくと良いと思う。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(3) 信頼される教員の確保と研修の充実

事業名 (予算/決算)	[1 1] 嘉麻市教育センター研修推進事業 (学校教育課：教務係・指導係) (予算：150 千円 / 決算：150 千円)				
目的	嘉麻市教育センターを中心に、市の課題に応じた教職員及び教育研究団体等の教育研究を奨励するとともに、若年層の指導技術向上、教職員の資質向上に努めます。				
事業内容	教職員研修、講師等対象研修、専門研修の実施、校内研修等における指導助言を行います。また、教職員の資質向上を目的とした教育論文の応募を推奨します。				
平成 30 年度の課題と取組	【課題等】 新学習指導要領の改訂に対応する外国語教育と道徳教育の研修会は、授業イメージを持ってもらうために、授業を伴う研修会とします。また、キャリアステージに応じて求められる資質・能力を明確にした指導助言をします。 【課題等への取組】 外国語教育研修会と道徳教育研修会は、公開授業を参加者で参観し、それぞれ「小中の円滑な接続を目指して」と「考え、議論する道徳を意識した道徳科指導」という視点で協議を行い、小中学校のどちらにも学びとなる内容で実施しました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 嘉麻市教育センターに指導主事を配置し、教職員研修等の充実に努めました。また、教職員のキャリアや学校からのニーズに応じて、指導助言も合わせて行いました。平成 3 0 年度は、学校訪問件数 1 0 5 回の指導主事派遣により、計画的・継続的な教職員の実践的指導力の向上に取り組むことができ、中学校においても授業改善に対する意識が高まっています。しかし、今後も若年教員の増加が予想されることから、継続した指導・支援が必要です。				
今後の方向性	新学習指導要領の全面実施を控え、小学校においてはプログラミング教育の導入が急務となっています。指導計画や教材の整備を行いとともに市内教職員のコンピュータ活用能力の向上につながる支援、指導を行う必要があります。				
令和元年度の課題	情報教育研修会において、プログラミング教育の在り方や教材活用に関する内容を取り扱い、授業づくりにつながる研修を行います。				
【評価委員の意見】 ・意見は特にありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(4) 安心して学べる学校づくりの推進

事業名 (予算/決算)		[12] 学校防犯体制整備事業（学校教育課：教務係・指導係） (予算：9,848 千円 / 決算：9,271 千円)					
目的		児童生徒の安全管理のため、学校安全に関する取組みの充実を図ります。					
事業内容		学校支援専門員（警察OB）を配置し、警察等関係機関と連携して生徒指導上の支援を行っています。スクールガードリーダーによる校内外の定期的な巡回や見守り、安全マップの作成、防犯メールの配信により、学校の安全体制の整備充実を図りました。					
平成 30 年度の課題と取組		【課題等】 生徒指導上の諸問題に対応する体制の点検を随時行い、迅速かつ適切な対応が維持できるようにします。また、不審者情報や防犯メールの配信、「通学路安全推進会議」等で地域の防犯意識高め、児童生徒の安全確保に努めます。 学校においては、マニュアルの共通理解を徹底させ、特に不審者の侵入を未然防止するよう指導します。 【課題等への取組】 学校支援専門員と学校との密な連携、スクールガードリーダーや地域ボランティアによる「通学路安全マップ」づくりや通学路での安全指導を行いました。また、不審者情報に対応し、該当地域の巡回を強化しました。					
事務局 自己評価		【評価項目】		A	B	C	D
		事業の必要性		○			
		事業の効果		○			
		事業の効率性		○			
		【自己評価の根拠】 生徒指導上の諸問題では、学校支援専門員と警察等関係機関とが連携することにより、非行・問題行動の未然防止及び迅速な対応ができました。また、スクールガードリーダーの配置、地域ボランティア、防犯メールの全校実施により、学校防犯体制の整備が進んでいます。 不審者事案が発生した場合は、学校支援専門員と警察が連携して、巡回等を強化し、深刻な事態に発展しないよう対応しています。					
今後の方向性		学校と学校支援専門員と警察等関係機関との連携強化を継続し、様々な生徒指導上の問題の対応を進めます。また、今後も「事件・事故の発生件数『0（ゼロ）』！」を目標に、定期的な通学路の安全点検、危険箇所の改善要望の継続、安心メール等による不審者事案への早期対応を行い、児童生徒の登下校の安全確保に努めます。					
令和元年度の課題		生徒指導上の諸問題に対応する体制の点検を随時行い、迅速かつ適切な対応が維持できるようにします。また、不審者情報や防犯メールの配信、「通学路安全推進会議」等で地域の防犯意識高め、児童生徒の安全確保に努めます。 学校においては、学校安全計画や危機管理マニュアルの共通理解を徹底させ、特に不審者の侵入を未然防止するよう指導します。また、学校評議員への防犯メール加入を進めていきます。					
【評価委員の意見】 ・意見は特にありませんでした。							
教育委員会評価				今回		A	
				(前回)		(A)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策２ 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(４) 安心して学べる学校づくりの推進

事業名 (予算/決算)	【13】通学対策事業（学校教育課：教務係） (予算：47,004 千円 決算：43,889 千円)				
目的	学校の統廃合に伴い、遠距離通学することになった児童生徒の通学費の負担を軽減します。また、市内小・中学校通学路の安全を確保します。				
事業内容	遠距離通学をする児童生徒の通学費の負担を軽減するため、通学費の補助、スクールバスの運行を行っています。また、通学路の安全を確保するため、嘉麻市通学路安全推進会議を開催し、点検及び対策を講じています。				
平成30年度の課題と取組	【課題等】 遠距離通学する児童生徒の安全確保と保護者の通学費の負担を軽減することや、通学路等の実態に合わせたスクールバス運行の見直しを行う必要があります。 【課題等への取組】 バスの定期券の購入費用の補助、スクールバス運行による児童生徒の送迎及び通学路等について、学校、保護者及びバス運行委託業者と協議を行いました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 稲築西小学校に通学する児童のうち、遠距離通学している児童のバス定期券の購入費用の補助を100%実施することができました。また、嘉穂中学校及び嘉穂小学校でスクールバスを運行し、遠距離通学となる児童生徒の送迎を行っています。				
今後の方向性	今後も遠距離通学をする児童生徒のバス定期券購入費用の補助を100%実施します。スクールバスについては、その運用方法について継続して協議していく必要があります。また、通学路の安全確保について、定期的に点検、対策の実施というサイクルで行っていきます。				
令和元年度の課題	嘉穂小・中学校のスクールバス運行について、引き続き学校、保護者及びバス運行委託業者と協議を行い、実情に応じた見直し等を行う必要があります。通学路の安全確保については、通学路安全推進会議を実施し、前年度行った合同点検の内容を報告・協議した後、その対策を講じる必要があります。				
【評価委員の意見】 ・稲築西小学校の遠距離通学に関して、距離的には昔から変わらないのは認識しているが、昨今の猛暑や不審者の増加などを考慮すると、補助区域（バス通学できる区域）を拡げてもいいのではないかと思います。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(5) 学校施設整備の推進

事業名 (予算/決算)	[1 4] 学校施設維持管理業務事業 （学校教育課：管理係） (予算：492,103 千円 / 決算：333,478 千円)				
目 的	すべての児童生徒が安心・安全な環境において、生活（学習）ができるよう、小中学校の補修、修繕、草刈等環境整備を実施し、施設維持の管理を行います。				
事業内容	・ 市内小中学校 1 3 校（小学校 8 校、中学校 5 校）の施設整備及び維持管理 ・ 施設維持管理業務委託（草刈、清掃、樹木剪定、浄化槽維持管理等）				
平成 30 年度 の課題と 取組	【課題等】 安心・安全な教育環境を維持するために、緊急性を要するものから施設の整備を行います。 【課題等への取組】 老朽化した熊ヶ畑小学校の大規模改造工事を実施し、児童生徒の教育環境の改善に努めました。また、児童生徒の安全のためブロック塀の撤去工事等を行いました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 緊急性を要するものから随時修繕工事等の対応を行い、安全性の確保に努めました。また、老朽化した施設の改修工事及びその他の施設管理委託業務においても、快適な施設管理の維持のため適正な予算執行を行いました。				
今後の 方向性	引き続き安心・安全な環境整備及び維持管理を行っていきます。また、今後は老朽化した施設については、個別施設計画に応じた改修を行う必要があります。				
令和元年度 の課題	安心・安全な教育環境を維持するため、緊急性を要するものから施設の整備を行います。また、昨年度よりの繰越事業として熊ヶ畑小学校の大規模改造工事及び災害復旧工事を実施します。				
【評価委員の意見】 ・ 意見は特にありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策２ 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(５) 学校施設整備の推進

事業名 (予算/決算)	[1 5] 大隈城山校維持管理事業（学校教育課：管理係） (予算：15,439千円 / 決算：14,209千円)				
目的	すべての生徒が安心・安全な環境において生活（学習）ができるよう、校舎等の適切な維持管理を行い、教育環境の整備を図ります。				
事業内容	大隈城山校の施設整備及び維持管理（建築年度：昭和61年度）				
平成30年度の課題と取組	【課題等】 年次計画的に老朽化した施設の整備を図る必要があります。また、適正な予算執行を図ります。 【課題等への取組】 学校施設の維持管理業務等を適切に実施しました。また、学校と連携を図りながら、適正な予算執行に努めました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 適切な学校施設の維持管理を行い、また学校現場と連携し生徒の教育環境の改善に努めました。				
今後の方向性	生徒が安心・安全な環境で学習に臨めるよう、教育環境の整備を実施します。				
令和元年度の課題	建築から30年が経過しており、経年劣化等による補修箇所があるため、引き続き年次計画的に施設の整備を図る必要があります。また、近年の猛暑に対応するため普通教室の空調機設置工事を行い、生徒の教育環境の改善に努めます。				
【評価委員の意見】 ・意見は特にありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(5) 学校施設整備の推進

事業名 (予算/決算)	[16] 学校施設整備事業（学校教育課：教育企画係） (予算：12,762千円 / 決算：12,215千円)				
目的	学校施設の老朽化が進行してきており、計画的・効率的な施設整備が求められています。教育の質を維持・向上させていくために、全施設対象の長期的な整備計画の策定と施設整備を実施します。				
事業内容	・嘉麻市学校施設整備基本計画（改訂版）（平成30年6月策定） ・嘉麻市小中一体型校施設整備基本方針（平成30年10月策定） ・碓井中学校区、稲築中学校区小中一体型校施設整備協議会（平成30年10月から平成31年2月まで開催）				
平成30年度の課題と取組	【課題等】 財政力の乏しい嘉麻市において、合併特例債などの有利な財源を活用した施設整備を実施するため、速やかに計画的・効率的な施設整備計画を策定します。 【課題等への取組】 ・平成29年度末に嘉麻市学校施設整備審議会を開催し、嘉麻市学校施設整備基本計画の改訂を行いました。 ・嘉麻市の小中一体型校施設整備の基本的な考え方を定めた、嘉麻市学校施設整備基本方針を策定しました。 ・施設整備の優先度が高い、碓井中学校区及び稲築中学校区において、地域住民の意見を反映した校区別の施設整備計画策定に向け、協議会を開催しました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 本事業は、施設の老朽化が進行していくなかで、安全・安心な教育環境を整備するために重要な事業であり、合併特例債発行期限（2025年度）までに、効率的な維持管理が可能となる小中一体型校舎を整備するため、施設整備基本計画の策定準備を概ね予定通り進めることができました。				
今後の方向性	合併特例債などの有利な財源を活用した施設整備を実施するため、速やかに計画的・効率的な施設整備計画を策定します。 財源確保が見込まれる校区から、速やかに事業を推進していきます。				
令和元年度の課題	平成30年度に協議会を開催した2校区については、住民説明会（パブコメ）を実施し校区別の施設整備基本計画を策定した後、設計業務の実施に向けて準備を進めていきます。 全学校の既存施設の整備方法についても検討し、個別施設計画を策定する必要があります。				
【評価委員の意見】 ・意見は特にありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(6) 地域に開かれた学校づくりの推進

事業名 (予算/決算)	[17] 学校関係者評価事業（学校教育課：教務係・指導係） (予算：622 千円 / 決算：206 千円)				
目的	教育活動等の成果の検証とその客観性・透明性の確保を通じて、学校経営の改善と発展を目指します。				
事業内容	保護者、地域住民等の連携強化のために学校関係者評価を全校で実施し、評価結果を公表しています。				
平成 30 年度の課題と取組	【課題等】 学校関係者評価委員会での意見が適切に反映された改善策となり、確実に実行されているかどうかについて継続的に指導します。 【課題等への取組】 学校関係者評価を全校で実施し、学校ホームページ、学校だより、保護者会等で公表するよう校長会議で指導するとともに、公表作業が円滑に進むよう支援しました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 すべての学校で自己評価に基づく、学校関係者評価の実施・公表・報告が確実に行われました。 しかし、評価結果の公表に終わることなく、学校関係者評価委員会での意見が反映され、次年度の改善策の策定と確実な実施が重要であること認識する必要があります。				
今後の方向性	学校運営の改善と発展を目指し、保護者や地域住民等の連携強化のために、学校関係者評価を全校で実施し、評価結果をホームページ等で公表する必要があります。				
令和元年度の課題	学校関係者評価委員会での意見が教育指導計画書に反映できているか確認するとともに、改善策の確実な実行を指導していきます。				
【評価委員の意見】 ・意見は特にありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(6) 地域に開かれた学校づくりの推進

事業名 (予算/決算)	[18] 学校開放事務事業（学校教育課：管理係） (予算：62 千円 / 決算：19 千円)				
目的	生涯学習社会における文化、スポーツ等の地域活動の場として、学校施設を開放することにより、地域住民の社会体育の推進を図ります。				
事業内容	学校教育に支障のない限りにおいて、市内小・中学校 13 校（小学校 8 校、中学校 5 校）の体育館及び運動場等の施設を開放します。				
平成 30 年度の課題と取組	【課題等】 現状の課題解決のため、学校開放に関する利用規定の見直しを行う必要があります。 【課題等への取組】 社会教育施設の減少により、今後の学校施設への利用増が見込まれるため団体の定義及び 1 団体における利用回数の制限等の検討を行いました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 学校施設利用団体の定義について、次年度以降の見直しについて検討を行い、学校開放調整会議において各団体へ事前周知を行いました。				
今後の方向性	引き続き学校施設を開放し、地域住民の社会体育の推進に努めます。				
令和元年度の課題	消費税及び地方消費税の変更に伴い、利用料金の見直しを行う必要があります。				
【評価委員の意見】 ・子どもたちの遊ぶ場が少ない地域がある。スポーツ活動への開放だけでなく、放課後や休日の子どもの遊び場として、グラウンドや体育館を開放していただきたい。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策２ 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(7) 小中連携教育への取組

事業名 (予算/決算)	[19] 小中連携教育推進事業 (学校教育課：教務係・指導係) (予算： ー 千円 / 決算： ー 千円)				
目的	義務教育9年間を通して、系統的、継続的な学習指導や生徒指導を行い、確かな学力、豊かな心、健やかな体を育むために、小中学校の校区型の小中連携事業を基本に推進し、小中学校すべての教職員による協働体制を整え、協働実践を行います。				
事業内容	小中連携教育等基本方針を作成し、必要に応じモデル校による実施を行います。				
平成30年度の課題と取組	【課題等】 各中学校区で授業交流、職員間の交流を実施し、校区の取組みを具体化していくよう指導します。 【課題等への取組】 各中学校における3年間の研究を委嘱することで、授業交流や職員間の交流を促していきました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 平成30年度は山田中学校区を単位とした小中学校をモデル校（研究指定校）とし、熊ヶ畑小、上山田小、下山田小、山田中学校の研究発表会を行うことができました。研究発表会に向けた授業交流や職員間の交流など、小中の連携を進めていくことができました。各中学校区とも、授業交流や職員間の交流を1回以上実施することができました。				
今後の方向性	研究指定校の発表を契機に中学校区毎に取組を推進する組織の活性化を行い、児童生徒の実態交流や学力向上に関する取組の協議、生徒指導の取組の共有等をさらに進める必要があります。				
令和元年度の課題	小中連携の目的を確認するとともに、各中学校区で授業交流や職員間の交流を実施する中で校区の取組を具体化させ、継続して取組を進めていくよう指導助言を行います。				
【評価委員の意見】 ・意見は特にありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(B)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(7) 小中連携教育への取組

事業名 (予算/決算)	[20] 小中連携・一貫教育研究事業（学校教育課：教務係・指導係） (予算：　－　千円 / 決算：　－　千円)				
目的	研究開発校や構造改革特区における小中一貫教育の取組みの成果を踏まえ、カリキュラム区分の弾力化など小中学校間の連携・接続を改善するための仕組みについて、種々の観点に配慮しつつ十分に研究していきます。また、小中学校間の教職員の人事交流や共同研究、小中連携した学力向上の取組み、生徒指導の連携などを図ります。				
事業内容	小中学校間の教職員の人事交流や共同研究を通して、小中連携を推進しています。				
平成30年度の課題と取組	【課題等】 教頭協議会研修会や主幹教諭研修会での研修内容の充実や指導の充実を図るとともに、小中一体型校舎の施設整備計画を契機とした小中連携の取組みの推進を行います。また、先進地視察等を通して、小中連携・小中一貫教育の情報収集を行います。 【課題等への取組】 教頭協議会研修会や主幹教諭研修会で校区間連携を推進する内容の研修を行いました。また、先進地視察を行い、小中連携・小中一貫教育の情報の収集を行いました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 嘉麻市の教育課題に適した連携・一貫教育を進めていくために、校区間連携に関する研修会や先進地視察を8回実施することで、小中連携・一貫教育研究事業の周知及び情報収集を行うことができました。				
今後の方向性	小中一体型校舎の施設整備計画が具体化してきています。該当校だけではなく、5中学校区が小中連携の重要性の認識をこれまで以上に高く持ち、具体的な実践につなげられるように、今後も継続して取組みます。				
令和元年度の課題	嘉麻市教職員研修会において、小中一体型校舎の施設整備計画や小中連携の取組について研修会を行います。また、先進地視察等を通して、小中連携・小中一貫教育の情報収集を行います。				
【評価委員の意見】 ・意見は特にありませんでした。					
教育委員会評価		今回		B	
		(前回)		(B)	

A: 期待どおり、B: 概ね期待どおり、C: 課題あり、D: 事業の見直し要

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(8) 教育の機会均等の促進

事業名 (予算/決算)		[21] 就学援助事業（学校教育課：教務係） (予算：91,345千円 / 決算：84,979千円)				
目的		経済的理由により、就学困難な児童生徒及び特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者に対し、必要な就学援助を行います。				
事業内容		経済的理由により就学困難な児童生徒及び特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者に対し、教育費の一部を援助します。				
平成30年度の課題と取組		【課題等】 経済的理由により就学困難な児童生徒の支援を最優先とするため、実情に応じた支援を行います。 【課題等への取組】 適正な基準により、教育費の一部の援助を行いました。				
事務局 自己評価		【評価項目】	A	B	C	D
		事業の必要性	○			
		事業の効果	○			
		事業の効率性	○			
		【自己評価の根拠】 申請のあった保護者に対し、学用品費、給食費、修学旅行費等の教育費の一部を援助することができました。また、入学準備に必要な学用品費の一部を適正な時期に援助することができました。				
今後の方向性		今後も継続して該当児童生徒への援助と本事業の広報等の情報発信による周知を行っていきます。また、実態に応じた援助方法について必要に応じて検討します。				
令和元年度の課題		経済的理由により就学困難な児童生徒の支援を最優先とするため、実態に応じた援助の基準について見直しが必要です。				
【評価委員の意見】 ・意見は特にありませんでした。						
教育委員会評価			今回	A		
			(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

(8) 教育の機会均等の促進

事業名 (予算/決算)	[22] 奨学金事業 (学校教育課：教育総務係) (予算： 25,322 千円 / 決算： 25,262 千円)				
目的	嘉麻市独自の奨学金制度により、高等学校や大学等に進学するための奨学金を貸し付け、経済的理由による就学困難者の負担軽減を図ります。				
事業内容	嘉麻市奨学資金貸付及び返還に関する業務 (貸与中の人数： 51 人) (返還中の人数： 204 人)				
平成 30 年度の課題と取組	【課題等】 返還金の徴収率向上に努めるとともに、滞納を未然に防止する措置を実施します。 【課題等への取組】 滞納者に督促状を送付し、納付相談等を行い、徴収率の向上に努めました。 口座振替の推進についても、継続して行っています。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性			○	
	【自己評価の根拠】 奨学金制度について、市広報誌とホームページに掲載し、市内中学校、近隣の高等学校にも周知を行い、新規に 16 名の貸付を行いました。 返還事務については、滞納者に対し 9 月に 65 件、1 月に 57 件の督促状を送付しました。徴収率は、平成 30 年度におきましては現年度 85.7%で、前年度と比較すると、0.2%上昇しましたが、過年度は 9.4%で、前年度より 0.7%下降しました。引き続き口座振替の推進や、納付相談等の個別対応を実施しながら、新たな滞納者を生まない取組を続けていきます。				
今後の方向性	経済的理由による就学困難者の負担軽減を図るため事業を継続します。また、返還事務については、滞納者に対し納付相談等の個別の対応を実施しながら、滞納整理を図ります。				
令和元年度の課題	現年度分の返還金徴収率向上を図るため、文書による督促及び催告を強化するとともに、早期に滞納整理に着手し、年度内の完納を目指します。また、新規貸付者については口座振替の原則化を徹底し、徴収業務の効率化を図ります。				
【評価委員の意見】 ・ 徴収率が悪いように思う。					
教育委員会評価		今回		B	
		(前回)		(B)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

(1) 道徳性と自立心を養う心の教育の充実

事業名 (予算/決算)	[23] 道徳教育推進事業（学校教育課：教務係・指導係） (予算：ー 千円 / 決算：ー 千円)				
目的	学校における道徳の時間の充実を図るとともに、家庭や地域社会との連携を図りながら、豊かな自然・社会体験を通して児童生徒の内面に根差した道徳性の育成を図ります。				
事業内容	学校における道徳の時間の充実を図るとともに、家庭や地域社会との連携を図ります。				
平成 30 年度の課題と取組	【課題等】 小学校主幹教諭研修会では評価についてのモデルを提示し、共通理解を図ります。また、道徳教育研修会では道徳教育推進教師と担任を対象に、授業を伴った研修を実施し、授業イメージを持つことと、組織的に道徳教育を推進していくことの理解を図ります。 【課題等への取組】 小学校主幹教諭研修会において、道徳教育の重点目標と道徳科の評価の考え方、評価方法について研修を行いました。また、道徳教育研修会では、授業を伴った研修を実施し、「考え、議論する道徳」を目指した授業づくりについて指導助言を行いました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 小学校では、道徳科の評価についての研修を日常の授業改善や通知表、指導要録に反映させることができました。各小中学校とも「考え、議論する道徳」に向けた教材研究や授業づくりを行い、実践の積み重ねができています。しかし、市全体では道徳の授業づくりに対する理解がまだ不十分です。				
今後の方向性	道徳教育の充実に向け、今後も「考え、議論する道徳」の授業をイメージできるように、授業観察を伴った研修を実施します。				
令和元年度の課題	主幹教諭研修会において、道徳教育についてのカリキュラム・マネジメントや評価についての共通理解を図ります。また、道徳教育研修会では道徳教育推進教師と担任を対象に、中学校での授業を伴った研修を実施し、「考え、議論する道徳」の具体について指導助言を行います。				
【評価委員の意見】 ・意見は特にありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(B)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

(1) 道徳性と自立心を養う心の教育の充実

事業名 (予算/決算)	[24] キャリア教育推進事業（学校教育課：教務係・指導係） (予算：243 千円 / 決算：139 千円)				
目的	家庭や地域と連携して、職業・職場体験活動等を行い、児童生徒一人ひとりのキャリア発達を支援し、望ましい勤労観、職業観を育てます。				
事業内容	市内の小中学校において、総合的な学習の時間や特別活動等の中で、基礎的・汎用的能力を育成する教育活動を展開します。				
平成 30 年度の課題と取組	【課題等】 各学校におけるキャリア教育の年間指導計画の実施状況を把握するとともに、キャリア教育の視点の意識化が進むよう指導助言を行います。 【課題等への取組】 職場体験学習の実施と、事前・事後学習の充実を図りました。また、職場体験学習とキャリア教育の視点とのつながりについて指導助言を行いました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 職場体験学習（2 日～3 日）を市内の全中学校で実施しました。その前後において、事前学習としてのマナー講習の実施や事後の振り返りにおける自己の生き方を考える学習の設定が行われ、生徒の職業観や進路選択に向けた意識に変容がみられました。特に、キャリア教育の視点からの指導が見られました。				
今後の方向性	本事業は、体験的な学習活動ができること、生徒自身に職業観や労働観、自己の生き方を見つめさせることが期待できます。 郷土の良さを味わう機会としても、学習をさらに充実させていきます。				
令和元年度の課題	主幹教諭研修会において、キャリア教育の視点とカリキュラム・マネジメントの側面から、キャリア教育の年間指導計画の改善・実践ができるよう指導助言を行います。また、キャリア・パスポートの活用について指導助言を行います。				
【評価委員の意見】 ・意見は特にありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

(1) 道徳性と自立心を養う心の教育の充実

事業名 (予算/決算)	[25] ボランティア活動推進事業（学校教育課：教務係・指導係） (予算：ー 千円 / 決算：ー 千円)				
目的	家庭や地域社会と連携して、児童生徒が他の人々や社会のために役立つとともに自分が価値のある存在であることを実感し、よりよく生きるための道徳的実践力の育成を図ります。				
事業内容	市内全小中学校において、ボランティア活動を計画的に実施します。				
平成30年度の課題と取組	【課題等】 「郷土を愛する人材育成」の授業実践と併せて、カリキュラムの改善ができるように、主幹教諭及び教務主任に対して指導助言します。 【課題等への取組】 「郷土を愛する人材育成」の構想をもとに、各学校の特色を活かしたボランティア活動の実践について指導助言を行いました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 「郷土を愛する人材育成」の授業実践の中で、地域の清掃活動、河川清掃等、各学校の特色を活かしたボランティア活動を実施できました。特に、中学校において地域の方と一緒に活動したり、異学年でのグルーピングが見られたりするようになりました。また、学校通信等でボランティア活動の啓発や活動の様子を発信することができました。				
今後の方向性	これまでに取組んできたボランティア活動を温めながら、各学校の特色を活かすとともに、地域や家庭と連携して取組める内容へと発展させていきます。				
令和元年度の課題	「郷土を愛する人材育成」の構想をもとに、各学校の特色を活かす取組や目指す資質能力の育成に向けたボランティア活動の推進について指導助言を行います。				
【評価委員の意見】 ・意見は特にありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策３ 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
(２) 健やかな心身をはぐくむ健康教育の充実

事業名 (予算/決算)	[26] 学校保健事業（学校教育課：教務係・指導係） (予算：19,659 千円 / 決算：19,208 千円)				
目的	家庭、地域及び関係機関等の連携・協力により、児童生徒及び教職員の心身両面にわたる健康管理の徹底を図ります。また、事故、加害行為、災害等により、児童生徒に危険又は危害が生じた場合の対処として、災害共済に加入します。				
事業内容	児童生徒、教職員の健康診断等を実施します。また、市内の小中学校に学校医、学校歯科医、学校薬剤師を配置し、児童生徒の保健、安全に関する指導を行います。さらに、各学校において学校保健及び学校安全に関する年間計画を作成し、適切に実施するよう指導助言を行います。災害共済加入手続きや給付金の支払い業務を行います。				
平成 30 年度の課題と取組	【課題等】 健康診断受診率 100%達成のために継続して周知と啓発に取り組むとともに、学校保健年間計画の見直しと検証を進めます。 【課題等への取組】 健康診断受診率 100%を達成できるよう関係機関と連携を図り、小中学校へ指導していきました。また、児童生徒及び教職員の心身両面にわたる健康管理を徹底できるように、学校保健年間計画の見直しと検証を進めていきました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 健康診断受診率 100%を目指し、「未検査用の受診のお知らせ」を配布したり校医の所で受診を促したりするなどの取組を行いましたが、100%達成できたか、確認が不十分です。また、養護教諭を中心に児童生徒の保健・安全に関する指導と保護者啓発、全教職員のストレスチェックの実施等心身両面にわたる健康管理の徹底を図るとともに、学校保健年間計画の見直しを行いました。				
今後の方向性	健康診断受診の重要性を家庭に継続して啓発するとともに、児童生徒も自分自身の健康のために必要なことを学び実践できるように、各学校の学校保健年間計画の内容について指導していく必要があります。また、不登校の児童生徒の健康診断受診及び健康教育の推進について、他課と連携します。				
令和元年度の課題	健康診断受診率 100%達成のために継続して周知と啓発に取り組みます。特に、健康診断を「受診ができない、していない」理由を明らかにし、課題解決に向けた啓発を行います。また、実効性ある学校保健年間計画にしていくための指導助言を行います。				
【評価委員の意見】 ・意見は特にありませんでした。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策３ 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
(２) 健やかな心身をはぐくむ健康教育の充実

事業名 (予算/決算)	[27] 学校給食運営事業（学校教育課：学校給食係） (予算：248,065 千円 / 決算：244,470 千円)				
目的	嘉麻市内小中学校で完全給食を行い、学校給食における衛生管理の徹底を図るとともに、魅力ある学校給食の充実につとめます。また、「食育」に関する授業の実施で「食事の重要性」等を身につける教育を支援します。				
事業内容	嘉麻市内全小中学校で完全給食を実施しています。衛生管理の徹底を図るために、施設の改修及び調理員を対象とした衛生管理研修を実施しています。 食育に関しては、「食育の日」「食育月間」はもとより、年間を通じて学校毎に実態に応じた取組みを行っています。				
平成30年度の課題と取組	【課題等】 安心・安全な学校給食を実施し、更なる衛生管理の徹底を図り、食物アレルギー対応についても適切な対応を図ります。また、「食の重要性」を身につける教育の支援を行います。また、地場産利用率については30%を目指します。 【課題等への取組】 ・給食を生きた教材として、食に関する教育の支援を行いました。 ・献立に則した『食育だより』を発行する際に地元生産者への取材を行い、地場産物への意識向上に努めました。 ・地元直売所を活用し、地場産の利用率向上に努めました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 年間190回を基準に給食を実施し、1日約3,300食の調理提供を行いました。 地産地消の推進に関しては、例年同様に地元直売所を通じ、地場産の利用に努め、地場産利用率32.3%で、前年度に比べ8ポイント上昇しました。				
今後の方向性	安心・安全な学校給食の実施のため、職員の衛生管理意識の徹底とアレルギー対応についても適切な対応を図ります。給食の時間を活用した食育指導の充実を図ります。地場産物の更なる活用に向け、地場産物への意識の向上を図ります。				
令和元年度の課題	安心・安全な学校給食を実施し、更なる衛生管理の徹底を図り、食物アレルギー対応についても適切な対応を図ります。また、「食の重要性」を身につける教育の支援や教員に対する給食指導の研修を行います。また、地場産利用率については30%を維持し、更なる利用率の向上を目指します。				
【評価委員の意見】 ・地産地消の取組は良いと思う。できるだけ地場産利用率を上げていてもらいたい。 また、食事マナー教育などを行っていただきたい。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
(2) 健やかな心身をはぐくむ健康教育の充実

事業名 (予算/決算)	[28] 学校給食費算定及び収納事業（学校教育課：学校給食係） (予算：216 千円 / 決算：159 千円)				
目的	学校給食費は、賄材料費の購入に要する経費のみを保護者負担としており、安心・安全な食材の購入等を行うための算定を行います。 また、受益者負担の公平性を確保するために、徴収業務を行います。				
事業内容	栄養バランスのとれた食材の購入ができるよう予算管理を行っています。 受益者負担の公平性を確保するため、給食費徴収業務を行っています。				
平成 30 年度の課題と取組	【課題等】 受益者負担の公平性を確保するため、更なる収納率の向上を目指し、徴収業務を行います。 【課題等への取組】 収納率向上への取組みとして、未納通知や催告書を発送するとともに、訪問による徴収も実施しました。高額未納者に対しては電話や個別訪問で納付相談を実施し、新規の児童手当からの同意書の提出により、分割納付や児童手当からの引去り実施件数を増やすよう努めました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 未納通知や催告書の発送、訪問徴収等収納率向上への取組みを実施しました。 現年度（30年度）の収納率は 99.16%で、前年度に比べて 0.31 ポイント上昇し、過年度の収納率は 19.22%で 0.4 ポイント下降しましたが、過年度の繰越額については昨年度に比べ、525,666 円減少しました。				
今後の方向性	栄養バランスのとれた安心・安全な食材の購入を行うための算定を行います。 また、受益者負担の公平性を図るため、徴収業務を行います。				
令和元年度の課題	受益者負担の公平性を確保するため、更なる収納率の向上を目指し、徴収業務を行います。				
【評価委員の意見】 ・意見は特にありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策３ 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
(３) 家庭・地域・学校における読書活動推進

事業名 (予算/決算)	[29] 読書活動推進事業（学校教育課：教務係・指導係） (予算：27,840千円 / 決算：26,840千円)				
目的	児童生徒の学習や読書意欲を高めるため、市立図書館や嘉麻市学校図書館協議会等との連携を図りながら、学校図書館の整備や図書司書機能の充実に努めるとともに、組織的、継続的な読書活動の推進に努めます。				
事業内容	図書館の管理運営、図書教育の指導補助、図書の受入れ、貸出し業務、書架の整理、廃棄業務、教科用図書関係事務等を行うため、図書司書を配置し、学校図書館の整備、充実を図っています。				
平成30年度の課題と取組	【課題等】 資料センターとしての図書館利用の促進、家庭での読書「うちどく」の啓発等、効果的な取組みを推進していく必要があります。 【課題等への取組】 各小中学校に配置された13名の図書司書、学校の図書館教育担当者（司書教諭等）を中心に、資料センターとしての図書館の整備を行うことで、図書館利用の促進を図りました。また、チラシなど配付をもとに家庭での「うちどく」の啓発を行いました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 各小中学校の図書司書や図書館教育担当者により、資料センターとして図書館の整備や読書活動の充実が図られています。また、「うちどく」の啓発を行ったことで、読書量が増えてきています。その結果、児童生徒一人当たりの年間貸出冊数は、39.1冊です。（小学校 56.8冊 中学校 14.3冊）				
今後の方向性	学校の状況を勘案し、児童生徒一人当たりの年間貸出冊数の指標を40冊に修正します。そして、読書の良さや家庭での読書「うちどく」を保護者に啓発する等、効果的な取組みを新たに推進する必要があります。また、蔵書を充実させ、図書館を資料センターとして授業で活用するよう指導に努めます。 隙間読書についても推進します。				
令和元年度の課題	市立図書館との連携をもとに、資料センターとしての図書館利用の促進、各学校での読書活動の充実及び家庭での読書「うちどく」の啓発等、効果的な取組を推進していきます。				
【評価委員の意見】 ・意見は特にありませんでした。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策３ 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
(４) いじめ・不登校問題等の解決に向けた体制の充実

事業名 (予算/決算)	[30] 適応指導教室（れすとぴあ）推進事業 (学校教育課：教務係・指導係) (予算：5,597千円 / 決算：5,501千円)				
目的	心理的又は情緒的理由により登校できない状態にある児童生徒の学校復帰を支援し、不登校児童生徒数の減少に取り組めます。教育相談、体験学習、教科学習、集団生活への適応指導、学校生活及び社会生活に適応できるための助言、援助を行います。				
事業内容	教育相談、体験学習、教科学習、集団生活への適応指導、学校生活及び社会生活に適応できるための助言、援助を行います。				
平成30年度の課題と取組	【課題等】 学習や体験学習等を通して、集団生活への適応指導を行い、チャレンジ登校を実施しながら学校復帰を目指した支援を行います。また、必要に応じて関係機関等と連携し、取組みを進めます。 【課題等への取組】 れすとぴあにも通級することができない児童生徒に対して、福岡県立大学と情報交換しながら、指導・支援の方法を検討しました。また、児童生徒の学校復帰を支援するため、集団生活への適応できるようにソーシャルスキルトレーニングを年間通して指導したり、教育相談等も実施したりしました。より指導が充実するように、学校と連携して個別の支援計画・指導計画を作成しました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 れすとぴあに2名の適応指導教室指導員兼相談員を配置し、適応指導、教科指導、教育相談等を行いました。平成30度は適応指導教室（れすとぴあ）に5名の生徒が在籍しました。中学3年生は1名在籍し、一時的に学校復帰した時期もあったが、完全な学校復帰はなりませんでした。中学生2名は、学校復帰を果たしました。また、アウトリーチ支援については、1校実施することができました。				
今後の方向性	今後も不登校児童生徒を減少させるためには、学校への復帰支援や居場所づくりやその保護者が相談できる体制を整備する必要があります。子育て支援課と連携を密にしながら、子どもの安心安全の場所と学習の機会を提供していきます。				
令和元年度の課題	学習や体験学習等を通して、集団生活への適応指導を行い、チャレンジ登校を実施しながら学校復帰を目指した支援を行うとともに、学校、子育て支援課と連携し取組を進めます。また福岡県立大学と連携し、不登校児童生徒の支援に向けたネットワークの構築に努めます。アウトリーチ支援が必要な児童生徒がいる場合は、児童生徒に応じた適切な指導を行います。				
【評価委員の意見】 ・これからも不登校の児童生徒が少しでも減るように継続してください。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策３ 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
(４) いじめ・不登校問題等の解決に向けた体制の充実

事業名 (予算/決算)	[3 1] 教育相談推進事業（学校教育課：教務係・指導係） (予算：10,893 千円 / 決算：10,893 千円)				
目的	いじめや不登校、暴力行為などの問題行動を起こした児童生徒に対して、専門的な知識や経験を有するスクールカウンセラー（臨床心理士）がカウンセリングを行い、スクールソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士）が中心となって関係機関と連携をとりながら問題解決にあたります。				
事業内容	嘉麻市教育センターにスクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーを配置し、不登校等の未然防止に向けて支援を行います。また、必要に応じて、保護者や教職員等の教育相談を実施します。				
平成 30 年度の課題と取組	【課題等】 必要に応じて保護者や教職員等の教育相談を実施し、専門的な立場で指導助言を行い、児童生徒の不登校等の未然防止を目指した支援を行います。なお、就学前の相談も行い、安心して学校生活が送れるようにします。 【課題等への取組】 いじめ・不登校の要因は複雑化しており、学校と嘉麻市教育センターが連携し、スクールカウンセラーによる教育相談、スクールソーシャルワーカーによる家庭訪問や電話相談等の支援、さらに他の関係機関との連携により、いじめ・不登校の解消、未然防止に取り組みました。また、関係機関の連携や支援を図で表したチラシを作成し、入学式等の学校行事のときに配布をして周知しました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 平成 3 0 年度の嘉麻市教育センターにおける教育相談 9 6 件あり、学校からの要請を受け、児童生徒や教職員を対象に行いました。就学相談も 1 0 7 件あり、保護者や関係課と行いました。スクールソーシャルワーカーによる面談・相談等の件数は 1 4 7 2 件あり、学校・家庭訪問をはじめ、関係課や児童相談所等と協力しながら、問題解決にあたりました。平成 3 0 年度のいじめの認知件数は 8 1 件と、細かい見取りにより増加しています。また、不登校児童生徒数は 5 2 名（全国出現率 1.47%（H29）に対して嘉麻市出現率 1.87%）までに減少しました。				
今後の方向性	必要に応じて保護者や教職員等の教育相談を実施し、就学相談窓口としても相談業務を行います。今後も、学校と子育て支援課、適応指導教室と連携し、問題行動を起こした児童生徒のカウンセリングを実施、いじめや不登校等の未然防止に向けて支援を行う必要があります。				
令和元年度の課題	必要に応じて保護者や教職員等の教育相談を実施し、専門的な立場で指導助言を行い、児童生徒の不登校等の未然防止を目指した支援を行います。なお、就学前の相談も行い、安心して学校生活が送れるようにします。				
【評価委員の意見】 ・意見は特にありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		（前回）	（A）		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策３ 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
(４) いじめ・不登校問題等の解決に向けた体制の充実

事業名 (予算/決算)	[32] 学校支援相談員配置事業 (学校教育課：教務係・指導係) (予算：7,510 千円 / 決算：7,413 千円)				
目的	家庭にひきこもりがちな不登校児童生徒に対して、児童生徒の抱える心の問題を理解し、積極的に取組む意欲を有する訪問指導員を派遣し、ひきこもりがちな児童生徒やその保護者等の悩みや不安を解消し、適応指導教室への通級及び学校復帰を支援します。				
事業内容	不登校及び不登校傾向の児童生徒宅を訪問し、適応指導教室への通級及び学校復帰を支援します。				
平成 30 年度の課題と取組	【課題等】 家庭訪問等の支援を細やかに行うことで、ひきこもりがちな児童生徒やその保護者等の悩みや不安をやわらげ、登校を促します。また、定期的に関係機関等の会議に出席し、情報共有や適切な支援になるよう検討し、連携しながら支援します。 【課題等への取組】 現在学校支援相談員を 3 名配置し、家庭訪問等を行い、一人ひとりに応じたきめ細やかな指導内容・相談を行うことで、適応指導教室への通級及び学校復帰への支援を行いました。また、不登校サポート会議やケース会議、学期ごとに福祉事務所等の関係機関との会議に出席し、情報の共有を行いました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 現在、学校支援相談員を 3 名配置し、登校を促すとともに、適応指導教室への通級、学校復帰者の増加、欠席日数の減少等、不登校解消に向けての成果が出ています。特に、平成 24 年度までは、100 名を超えていた不登校児童生徒数ですが、25 年度 76 名、26 年度 77 名、27 年度 52 名、28 年度 49 名、29 年度 46 名、30 年度 52 名と減少してきています。				
今後の方向性	令和元年度からは教育センターの教育相談室は子育て支援課に移行しましたが、今後も不登校解消の取組みを組織的に行う必要があります。令和元年度は、市内小中学校不登校児童生徒数 41 人以下（各学校の目標指数合計）（全国出現率 1.47%（H29））に対して嘉麻市出現率 1.87%）を目指します。今後、不登校対策協議会（仮）等の体制づくりを行い、学校支援相談員と連携した取組が必要です。				
令和元年度の課題	家庭訪問等の支援を細やかに行うことで、ひきこもりがちな児童生徒やその保護者等の悩みや不安をやわらげ、登校を促します。また、定期的に関係機関等の会議に出席し、情報共有や適切な支援になるよう検討し、連携しながら支援します。				
【評価委員の意見】 ・意見は特にありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		（前回）	（A）		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策３ 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
(５) 家庭・地域の教育力を高める支援体制の充実

事業名 (予算/決算)	[33] 地域教育資源・人材活用事業（学校教育課：教務係・指導係） (予算：1,369 千円 / 決算：819 千円)				
目的	学習指導要領の趣旨を踏まえ、各学校の創意を生かした教育課程を編成し、地域社会の現状を踏まえ、児童生徒の学習に協力することのできる地域の人材や施設を生かし、教育活動を行います。				
事業内容	専門的な知識や経験を持っている人から話を聞いたり、技術を見せてもらったりする体験は、子どもたちの学びを深める上で大変効果的であり、地域の人材を外部講師として招き、農業体験や物づくり指導を推進します。				
平成 30 年度の課題と取組	【課題等】 各学校で実践した学習を地域や家庭に広報し、嘉麻市として郷土を愛する人材を育成していることを周知し、地域や家庭からの協力と円滑な教育活動の好循環を生み出す必要があります。 【課題等への取組】 学校通信などをもとに、各学校が実践した学習を地域や家庭に広報するよう指導助言を行いました。また、主幹教諭研修会において、地域の「ひと、もの、こと」を活用した教育課程の編成について指導助言を行いました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 地域の教育資源を活用した教育活動を展開することができています。地域の特性を生かした活動の充実に向けた教材研究や教育課程の編成も徐々に進んでいます。学校通信やHPをもとに、各学校での実践が広がりつつあります。今後も継続して改善に取り組み、教科や単元の目標と照らし合わせ、効果的な学習にしていく必要があります。				
今後の方向性	今後も教育課程の見直し、地域資源や地域人材の活用計画の充実、学習活動の実施・評価を行うとともに、地域や家庭の教育力の向上を視野に、取組の成果を地域や家庭に広報していく必要があります。				
令和元年度の課題	主幹教諭研修会において、郷土を愛する人材を育成していくためのカリキュラム・マネジメントを行い、各学校における教育課程の改善内容を確認させます。また、地域や家庭と連携し、各学校で実践した学習を地域や家庭に広報していくことを指導します。				
【評価委員の意見】 ・意見は特にありませんでした。					
教育委員会評価		今回		B	
		(前回)		(B)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策３ 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
(５) 家庭・地域の教育力を高める支援体制の充実

事業名 (予算/決算)	[34] 学校と地域が連携して子どもを育む事業 (学校教育課：教務係・指導係 生涯学習課：社会教育係) (予算： ー 千円 / 決算： ー 千円)				
目的	子どもたちの総合的な健全育成と学力向上の手段として学社連携を推進するとともに、多岐にわたる学校教育の指導に地域の教育力を活用し、地域全体の教育力を高めます。				
事業内容	ボランティア人材バンクの活用や住民会議、子ども会事業、学校行事等を通して、学校と地域が連携・協力できるよう支援します。				
平成 30 年度の課題と取組	【課題等】 学校と連携している事業について、地域での差がみられるので、それぞれの地域の実状に応じた支援を行っていく必要があります。 【課題等への取組】 子ども会や住民会議・通学合宿実行委員会等の役員が学校に出向き、それぞれの団体で実施している事業のPRや、事業を実施する際の周知・募集等を学校と連携して行うための支援を行い、地域と学校が協力し、事業を実施することができました。ボランティア人材バンク事業では、登録地区以外の地区への派遣について調整を行いました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 学校と地域団体が連携し、学校において子どもたちに地域の活動を紹介する場を設けるなど、子どもたちが地域の活動に参加するきっかけを作ることができました。また、学校への周知を行うことにより、地域と学校の協力体制を深め、より一層地域に根差した活動を展開することができました。 ボランティア人材バンク事業では、4登録地区のうち3地区において地区外へ派遣することができ、地域間の活動支援に繋げることができました。				
今後の方向性	地域団体間の繋がりを強化し、学校と地域が情報交換・情報共有できるような場を設定するなど、学校と地域団体との協働活動を推進します。				
令和元年度の課題	教職員の研修等を含む学校行事と地域団体事業の日程が同時期に重なる事があったため、学社間の日程を調整し、連携した担当者会議の開催など、情報の共有と事業の検証を行う必要があります。				
【評価委員の意見】 ・意見は特にありませんでした。					
教育委員会評価		今回		A	
		(前回)		(A)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策３ 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
(５) 家庭・地域の教育力を高める支援体制の充実

事業名 (予算/決算)	[35] 家庭教育支援事業（生涯学習課：社会教育係） (予算：149 千円 / 決算：38 千円)				
目的	子育て家庭の孤立を防ぐとともに、子育ての不安や負担感・行き詰まり感の解消を図る事業の実施や、地域活動を通して子育て家庭と地域の人たちの交流や保護者同士の交流を図り、地域ぐるみで子育て家庭を支援する体制づくりを目指します。				
事業内容	・家庭教育支援講座（ポジティブディシプリン講座・こそだてガイド講座） ・メディアが及ぼす影響・対策に関する啓発活動等（メディア講座） ・屋外体験事業（ミニプレーパーク事業）				
平成 30 年度の課題と取組	【課題等】 産後の早い段階で保護者が復職する家庭が増え、講座の参加者が減少傾向にあるので、参加しやすい講座の実施方法や、参加したいと思われる内容等の検討を行っていく必要があります。また、ミニプレーパーク事業では、地域ボランティアの意見を考慮しながら、事業を展開していく必要があります。 【課題等への取組】 こそだてガイド講座は年長児を持つ保護者を対象としていますが、保護者の多くが就業していることから土曜日に開催し、講座開催数連続 4 回を 2 回に減らすことで参加しやすい設定としました。 ミニプレーパーク事業において、地域ボランティアと協力しながら、事業内容の検討から実施まで行うことができました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 こそだてガイド講座は参加しやすい設定としていましたが、申込が少なく、2クール実施の予定が1クールの実施となり、再度内容の検討が必要です。 ミニプレーパーク事業では、地域ボランティアの提案により、うさぎと触れ合える場所を作りました。今後も地域の方々と協議し、地域主導型の事業実施に移行できるよう努めます。 メディアに関する啓発活動の実施回数及び対象者数は、平成29年度201回（延べ6,722人）、平成30年度201回（延べ7,749人）であり、同開催数ではありますが対象者は増となっており、乳幼児～高校生の発達段階に合わせた意識啓発のほか、保護者・教職員への情報提供を行うことができました。				
今後の方向性	子育て家庭の孤立を防ぐとともに、子育て中の親子が出会い、繋がる場をつくることで、子育ての不安などの解消に繋げるとともに、地域の人たちとのつながりをつくることで、地域ぐるみで子育て家庭を支援する体制づくりを推進します。				
令和元年度の課題	少子化や保護者の早期復職などにより、講座参加者が減少傾向にあることから、開催時期や関係他課と連携した事業内容の検討を行う必要があります。				
【評価委員の意見】 ・ミニプレーパークは、今後も継続してほしい。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
(5) 家庭・地域の教育力を高める支援体制の充実

事業名 (予算/決算)	[36] 青少年健全育成事業（生涯学習課：社会教育係） (予算：1,375 千円 / 決算：1,242 千円)				
目的	総合的な青少年の健全育成のための活動並びに関係機関との連携を強化します。				
事業内容	・ 青少年の悩みや相談に、電話や直接対応できるよう学校教育課や嘉麻市教育研究所と連携し相談体制の充実を図ります。 ・ 少年補導委員が効率的に活動できるよう支援を行なうとともに、嘉麻市教育研究所と連携し、定期的に登下校時に市内巡回をすることにより、不審者等から児童・生徒の安全を確保するとともに、いじめや非行防止を図ります。				
平成 30 年度の課題と取組	【課題等】 児童生徒のいじめや非行防止に努めるとともに、不審者等から児童生徒を守るため、嘉麻警察署や嘉麻市教育センター（現嘉麻市教育研究所）等の関係機関と補導委員が連携・協力して、安心・安全な環境を作る必要があります。 【課題等への取組】 生徒指導連絡協議会等の関係機関との会議で管内情勢について情報を共有するとともに、少年補導委員の定期的な巡回や街頭補導、夏まつりでの夜間補導により、児童生徒の安全確保を図りました。また、補導委員の研修会を開催し、知識の向上を図りました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 電話相談の件数は年間数件でしたが、学校教育課等と情報共有を行いました。 児童生徒のいじめや少年非行を未然に防ぐため、嘉麻市教育研究所や少年補導委員が連携・協力して取組んでいます。また、少年補導委員による定期的な市内巡回により、不審者や事故等から児童生徒を守ることに繋がっています。				
今後の方向性	児童生徒並びに保護者等からの相談に適切に対応できるよう、関係課・関係機関等と連携・協力し、相談業務の充実を図ります。 引き続き嘉麻警察署や補導委員等の関係機関と連携・協力を行いながら、児童生徒の安心・安全を守るとともに、少年非行の防止と適切な指導を行います。				
令和元年度の課題	・ 相談業務について、学校教育課や教育研究所と連携を行い、より充実した相談体制づくりをする必要があります。 ・ 少年補導委員への継続的な支援を行うとともに、資質向上を図るための研修会を開催し、参加を促す必要があります。				
【評価委員の意見】 ・ 意見は特にありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策３ 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
(6) 男女共同参画教育の推進

事業名 (予算/決算)	[37] 学校における男女共同参画推進事業 (学校教育課：教務係・指導係) (予算： ー 千円 / 決算： ー 千円)				
目的	男女共同参画の意識づくりをする上で、家庭や学校・地域での教育が重要であり、「嘉麻市男女共同参画推進条例」の理念に基づき、男女共同参画の趣旨や必要性について、教育を通して意識改革と啓発を促進します。				
事業内容	学校教育の場においては、指導者の共通認識のもとに男女平等の教育の体制をつくり、男女平等の視点から習慣・行事等の見直し、固定的性別役割分担にとられない指導を進めます。				
平成30年度の課題と取組	【課題等】 「嘉麻市男女共同参画推進条例 学ぼうそして行動しよう」の冊子を活用した授業づくりを推進します。 【課題等への取組】 校内研修及び性に関する指導の実施状況を把握し、指導助言を行いました。また、稲築西小学校、嘉穂小学校、碓井小学校でモデル授業を行い、モデル授業をもとに実践の手引きを作成し配布していきました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 平成30年度における各学校の冊子の活用状況について、小学校は8校中5校が、家庭科や社会科、道徳、学級活動で活用できました。中学校では、5校中2校が、社会科や総合的な学習の時間で活用できました。性に関する研修やそれを基にした授業実践が実施される中、LGBTへの理解が進められています。また、各学校では、日常的に男女混合名簿を使用したり、学校での仕事分担を児童生徒の意欲や適正で決定したりする等の状況が定着しています。				
今後の方向性	教職員の共通認識のもと、男女平等等の観点から慣習・行事等の見直し、固定的性別役割分担にとられない指導を進めます。				
令和元年度の課題	「嘉麻市男女共同参画推進条例 学ぼうそして行動しよう」の冊子を活用した授業づくりや男女共同参画を意識したカリキュラム・マネジメントを推進します。				
【評価委員の意見】 ・このような授業がきちんと取組まれていることは素晴らしいと思います。あわせて、学校のハード面の整備も進めてほしい。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進
(6) 男女共同参画教育の推進

事業名 (予算/決算)	[38] 地域社会における男女共同参画推進事業 (生涯学習課：社会教育係) (予算： ー 千円 / 決算： ー 千円)				
目的	身近に生活する地域社会において、今なお残っている固定的な性別役割分担意識に基づく慣習・慣行の見直しや男女共同参画の啓発を行うとともに、学習機会の提供に努めます。				
事業内容	家庭における家事・育児に男性の参画を促すような、また、女性の家事・育児からの負担軽減を図り、日常生活での固定的役割分担意識の解消につながるような事業を展開します。また、実施する事業の中で、男女共同参画についての情報提供・啓発を行います。				
平成 30 年度の課題と取組	【課題等】 男性保護者に対する主体的な子育てへの参画や、男女の性別役割分担意識の解消に向けた取組方法等について、男女共同参画推進課と協議し、連携・協力して取組む必要があります。 【課題等への取組み】 ミニプレーパーク事業などの外遊びを通じ、男性保護者が家庭教育に参画するきっかけ作りができました。 比較的、男性保護者の参加率が高い事業に合わせ、親子体験活動・講座を実施することにより、男女の性別役割分担意識の解消への意識付けとなりました。 各事業において、男女共同参画についてのチラシや冊子の配架による啓発を行いました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 ミニプレーパーク事業での木工・段ボール工作や男性保護者の参加率が高い事業である夢まつりでのエコ工作、子どもフェスタでの廃段ボールを使った簡易トイレづくりなどを実施し、家庭における育児に男性の参画を促すきっかけづくりを行うことができました。また、事業を実施する中で、事業に関わる人や参加者が、性別にとらわれることなく自分の個性や能力を発揮する機会を確保できるよう支援を行いました。通学合宿においても、性別に関わらず、皆で掃除・洗濯を行うなど、固定的な性別役割分担意識の解消に努めました。				
今後の方向性	実施する事業の中で、男女共同参画推進課と連携し、男女共同参画についての意識啓発を行います。また、男性の家事・育児への参画を促す講座や男女の性別役割分担意識の解消に繋がるような取組みを進めます。				
令和元年度の課題	男女共同参画推進課と連携し、男性保護者を対象とした事業・講座の実施を検討する必要があります。				
【評価委員の意見】 ・ 以前、男性保護者として離乳食教室に参加した。男性一人で恥ずかしかったが、楽しかったので、周知を徹底してほしい。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(1) 生涯学習関係機関、団体との連携・協力体制の整備

事業名 (予算/決算)	[39] 社会教育関係団体等育成事業（生涯学習課：社会教育係） (予算：7,958 千円 / 決算：7,953 千円)				
目的	社会教育関係団体が主体的に活動できるよう情報の提供や研修会の実施、事業運営の支援を行い、協働のまちづくりが図られるよう地域のリーダーの育成に努めます。				
事業内容	社会教育関係団体をはじめ各種団体が、自主的な運営や事業展開が図れるよう指導助言等を行い、育成支援を行います。				
平成 30 年度の課題と取組	【課題等】 それぞれの団体が、継続して活発に事業を実施できるよう、各団体に指導・助言を行いながら、継続的な支援を行っていく必要があります。 【課題等への取組】 各団体に継続的に事業が展開できるよう支援を行いました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 住民会議では、4 回目の中学生サミットを実施するなど、継続して取組むとともに、学校とも継続して連携することができました。 子ども会では、支部ごとの活動のほか、市子ども会指導者連合会主催事業の支援を行いました。 文化協会では、各部門合同での「嘉麻文化芸術祭」開催などの活発な活動と、2 回目となる書初め大会の運営において、他団体との交流・協働が図られました。				
今後の方向性	・社会教育関係団体の運営の活性化を図るとともに、新たな取組みを促進するため、必要に応じて適切な指導・助言を行います。 ・各種団体の課題を認識し、人材を育成するとともに自立に向けた支援を行います。				
令和元年度の課題	社会教育関係団体が実施する事業内容を精査し、人材育成・組織改編等、自立に向けた指導助言を行う必要があります。				
【評価委員の意見】 ・意見は特にありませんでした。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(2) 学習機会の提供及び学習成果の活用促進

事業名 (予算/決算)	[40] 社会教育施設整備事業（生涯学習課：社会教育係） (予算：44,541 千円 / 決算：41,673 千円)				
目的	市民の様々な学習ニーズに応える生涯学習の場（拠点）を適切に提供できるよう、施設の特徴及び防災上の活用を考慮し、優先度の高いものから改修と整備（保守・管理）を行い、効果的な生涯学習活動の場としての整備を図ります。				
事業内容	社会教育施設の維持管理・改修・補修、施設備品の管理・補修を行います。				
平成 30 年度の課題と取組	【課題等】 市の行財政改革に伴う個別施設の見直し計画を策定する必要があります。 【課題等への取組】 老朽化した施設について、個別施設の見直し計画を作成しました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性			○	
	【自己評価の根拠】 ・ 緊急性を考慮し、必要最小限の補修等により適切な維持管理に努めました。 ・ 空調設備等について、計画的に整備を行いました。 ・ 施設利用者数は前年度と比較して微増となっていますが、老朽化による不慮の修繕・補修により予定外の支出が発生したため、事業の効率性の面では課題があります。				
今後の方向性	・ 社会教育施設を適正に維持管理運営することで、市民に教育・文化活動や発表を行う場と機会を継続して提供します。 ・ 行財政改革に伴う個別施設の見直し計画・方針に基づき、適正な運営を行います。				
令和元年度の課題	なつき文化ホールの大規模改修（吊り天井改修）を令和2年度に予定しているため、他の施設利用を促すなどの事前周知を行う必要があります。				
【評価委員の意見】 ・ なつき文化ホールは、イベントでよく利用されているので、なるべく早く改修してほしい。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(2) 学習機会の提供及び学習成果の活用促進

事業名 (予算/決算)	[4 1] 生涯学習推進事業（生涯学習課：社会教育係） (予算：31,735 千円 / 決算：30,008 千円)				
目的	市民が自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、生涯学習推進体制の整備をはじめ、生涯学習の総合的推進を図るとともに、地域の生涯学習施設等を活用した生涯学習のための活動を推進します。				
事業内容	地域活動指導員を配置し、地域活動及び生涯学習の推進を図ります。 社会教育関係職員・地域活動指導員の研修会への参加や、社会教育主事の養成など関係職員の資質向上に努めます。				
平成 30 年度の課題と取組	【課題等】 様々な研修会等への参加や市民のニーズを把握することにより、事業内容の見直し等を行う必要があります。 【課題等への取組】 筑豊教育事務所や社会教育総合センターで開催されている研修会への積極的な参加を促進し、職員・地域活動指導員の資質の向上に努めました。 また、地域活動指導員間の情報共有を図り、相互に連携・協力して事業を実施しました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 地域活動指導員が各種研修会に参加することで資質の向上を図り、それぞれの地域に応じた事業の実施に繋げることができました。また、地域活動指導員が連携・協力して人材バンク派遣事業を実施することで、学校や地域などの生涯学習活動の活性化につながりました。				
今後の方向性	市民の生涯学習活動が円滑に行われるよう、地域活動指導員を配置し、家庭・地域の教育力の向上と、子どもたちの生きる力や地域リーダーの育成を図ります。				
令和元年度の課題	・人材バンク事業について、高齢化等により登録者が減少傾向にあるため、新たな人材の発掘と確保の必要があります。 ・生涯学習推進事業全般の実施については、現在の職員（地域活動指導員含む）数において実施・支援ができており、機構改革等により人員削減となった場合、事業内容及び支援方法の見直しや、事業の縮小・廃止も検討する必要があります。				
【評価委員の意見】 ・意見は特にありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(2) 学習機会の提供及び学習成果の活用促進

事業名 (予算/決算)	[42] 青少年体験活動推進事業（生涯学習課：社会教育係） (予算：1,035 千円 / 決算：922 千円)				
目的	青少年の人格形成に大切な少年期に生活体験や自然体験等の活動を促進し、社会性、自主性等を身につけた地域リーダーとなる人材育成を推進します。				
事業内容	子どもの基本的生活習慣の確立を目指し、実行委員会と連携して実施している通学合宿事業、小学生が題材に沿ってエッセイを書く「わたしのエッセイ」事業など、子どもの体験活動を実施します。				
平成 30 年度の課題と取組	【課題等】 地域ボランティアは徐々に増えつつありますが、どの地区においても核となるボランティアの固定化が見られるので、役割分担などの運営方法を検討する必要があります。 【課題等への取組】 通学合宿を経験した子どもたちに積極的な声掛けを行うことで、通学合宿のサポーターとしての参加を促しました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 市内 4 地区で通学合宿を実施しました。実施年度において対象児童数のばらつきはあるものの、地域ボランティアや通学合宿を経験した子どもたちがサポーターとして協力することにより、参加した子どもたちが集団生活を送り、炊事や洗濯など様々な体験をすることができました。サポーターについては、平成 29 年度の 19 人に対し、平成 30 年度は 27 人となりました。 「わたしのエッセイ」事業について、平成 29 年度の応募数は 1,438 点でしたが、平成 30 年度は 1,572 点の応募があり、作品数が大幅に増えました。子どもたちがエッセイを書くことにより、表現力の向上に繋がっています。				
今後の方向性	子どもたちに様々な体験活動の機会を提供することにより、社会性・自主性・表現力などの「生きる力」を育みます。				
令和元年度の課題	・通学合宿については全地区的に実施していますが、山田地区は下山田小学校のみでの実施となっているため、山田地区全体で実施できるよう支援していく必要があります。 ・青少年体験活動推進事業については、現在の職員（地域活動指導員含む）数において実施・支援ができており、機構改革等により人員削減となった場合、事業内容及び支援方法の見直しや、事業の縮小・廃止も検討する必要があります。				
【評価委員の意見】 ・「わたしのエッセイ」は、素晴らしい取組だと思う。冊子には、授賞式で表彰された作品は載せてあるが、賞を取った作品はすべて載せてほしい。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(2) 学習機会の提供及び学習成果の活用促進

事業名 (予算/決算)	[4 3] 公立公民館・自治公民館連携強化推進事業 (生涯学習課：中央公民館係) (予算：14,047 千円 / 決算：13,595 千円)				
目的	各地区公民館が地域の拠点として機能するよう施設の維持管理を行い、併せて各地区公民館・分館と連携し、地域住民の生涯学習の場として公民館の活性化を図ることを目的とします。				
事業内容	分館及び自治公民館と情報共有し、各地域の公民館事業の活性化に向けた取組みを行います。また、将来の嘉麻市の公民館のあり方について共通理解を深め、組織の統一化を図ります。				
平成 30 年度の課題と取組	【課題等】 公民館基本方針及び基本計画を進めるためには、地域住民の協力は不可欠であり、今後は地域住民への説明、協議を行いながら進めていく必要があります。また、耐用年数を超えた施設や老朽化した施設が多くあるため、施設の整備や修繕についても計画を立て、実施していく必要があります。 【課題等への取組】 公民館基本計画については、各分館長・主事会議、各自治公民館長会議にて継続して説明を行っています。また、分館の移設等、地域との協議が必要なものについては、個別に協議を行いました。その他、今後の施設のあり方、施設整備のための財源等々についても継続して検討を行っています。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性			○	
	【自己評価の根拠】 地域住民の生涯学習の拠点となる公民館の役割は重要であり、各地区公民館と分館の連携は不可欠であるため、事業の必要性は A 評価とします。 公民館基本計画については、地元住民への説明及び地元協議を継続して進めていますが、施設整備を伴うものについては、施設整備を行うための財源の確保が難しい状況であるため、実施時期が大幅に遅れる可能性があり、事業の効率性については、C 評価としました。				
今後の方向性	公民館基本計画については、今後も継続して地域住民への説明を行い、地元協議を進めていきます。施設整備を伴うものについては、財源の確保に努め、有利な財源を利用し、基本計画に基づいた施設整備の実施に努めていきます。				
令和元年度の課題	今後、公民館基本計画を進めていくうえで、施設整備を伴うものについては、財源確保が難しい状況であるため、有利な財源を利用して計画が実施できるよう、実施時期の見直しを行う必要があります。				
【評価委員の意見】 ・意見は特にありませんでした。					
教育委員会評価		今回		B	
		(前回)		(A)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(2) 学習機会の提供及び学習成果の活用促進

事業名 (予算/決算)	[44] 公民館活動活性化推進事業（生涯学習課：中央公民館係） (予算：75,079 千円 / 決算：73,411 千円)																								
目的	住民相互の交流と教養の向上、更には健康増進を図り、市民の生きがいをづくりの場を提供することを目的とします。																								
事業内容	地域住民の生活に根ざした教育・文化に関する各種の事業・講座を開催します。また、公民館事業の活性化を図るため、地域住民のニーズを踏まえつつ、住民が相互学習により地域の主体として活動することが可能となるような地域住民参加型の事業を推進します。																								
平成 30 年度の課題と取組	【課題等】 公民館基本方針及び基本計画に基づき、事業展開を図っていくために、平成 29 年度に実施したアンケート結果を参考に事業の見直しを行い、新たな事業展開を図る必要があります。また、地域で活動する人材を支援するための講座やイベントの開催についても検討する必要があります。 【課題等への取組】 平成 30 年度の事業については、アンケート結果を参考に事業の見直しを行い、公民館基本計画に定める「公立公民館で実施する事業」に基づいた事業展開を図りました。それぞれの地区公民館で事業の企画立案を行い、事業ヒアリングを経て、事業を実施しています。また、地域住民と協働で事業を実施することで、公民館活動の推進を図ることができました。																								
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D																				
	事業の必要性	○																							
	事業の効果	○																							
	事業の効率性		○																						
	【自己評価の根拠】 公民館講座については、多様な学習機会を提供することにより、個々に学ばれたことが市民参画という形で地域に還元され、地域コミュニティの活性化に繋がるものであるため、事業の必要性は A 評価とします。また、平成 30 年度については、公民館基本計画に定める「公立公民館で実施する事業」に基づき、事業展開を図ることができたので、事業の効果を A 評価としました。 なお、年間事業数については、地域住民との協働事業 15 事業、公民館講座 16 講座と、目標とする 14 事業、10 講座を上回ることができました。 〔主な事業内容〕 <table><tr><td>・ときめき学習</td><td>延べ 34 回</td><td>参加者数</td><td>1,487 名</td></tr><tr><td>・ふるさと探検隊</td><td>延べ 11 回</td><td>参加者数</td><td>425 名</td></tr><tr><td>・サルビア大学</td><td>延べ 10 回</td><td>参加者数</td><td>412 名</td></tr><tr><td>・日本語教室</td><td>延べ 7 回</td><td>参加者数</td><td>29 名</td></tr><tr><td>・夢まつり</td><td>延べ 1 回</td><td>参加者数</td><td>350 名 等</td></tr></table>					・ときめき学習	延べ 34 回	参加者数	1,487 名	・ふるさと探検隊	延べ 11 回	参加者数	425 名	・サルビア大学	延べ 10 回	参加者数	412 名	・日本語教室	延べ 7 回	参加者数	29 名	・夢まつり	延べ 1 回	参加者数	350 名 等
	・ときめき学習	延べ 34 回	参加者数	1,487 名																					
・ふるさと探検隊	延べ 11 回	参加者数	425 名																						
・サルビア大学	延べ 10 回	参加者数	412 名																						
・日本語教室	延べ 7 回	参加者数	29 名																						
・夢まつり	延べ 1 回	参加者数	350 名 等																						
今後の方向性	公民館基本計画に定める「公立公民館で実施する事業」に基づいた事業を実施することで、公民館活動の活性化を図ります。また、地域人材を活用できる事業・講座の企画・運営を通じ、地域の核として活動する人材の育成を図ります。																								
令和元年度の課題	人口減少や少子高齢化の影響による公民館活動への参加者の減少、後継者不足により、公民館活動が停滞している地域も見られます。そのため、地域の核となる人材を育成する事業を実施することで、地域の主体的な公民館活動に繋げる取組を行う必要があります。																								
【評価委員の意見】 ・活動は嘉穂地区が多いように思うが、他の地区での活動、人材育成も考えてほしい。																									
教育委員会評価		今回	A																						
		(前回)	(A)																						

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(3) 図書館の利用促進

事業名 (予算/決算)		[45] 図書館施設管理運営事業 (生涯学習課：図書館係) (予算：86,039 千円 / 決算：85,275 千円)				
目的		図書館施設及び図書館システムを適切に管理運営することにより、読書環境の整備・充実を図り、快適かつ安心して利用できる図書館サービスを提供することを目的とします。				
事業内容		・ 図書館施設及び図書館システムの維持管理・選書等資料の管理 ・ 配本車の巡回・移動図書館車の運行・図書館だよりの発行 等				
平成 30 年度の課題と取組		【課題等】 嘉麻市の図書館の将来像について、市の財政状況等を踏まえた上で、各地域における読書活動を充実するための環境づくりについて、新たな視点に立った検討を行う必要があります。 【課題等への取組】 嘉麻市立図書館基本計画については、図書館協議会において、先進地視察や 7 回に亘る協議のうえ、平成 31 年 3 月に策定に至りました。嘉麻市にふさわしい図書館の在り方（将来像）の実現を目指して今後も検討を行っていきます。				
事務局 自己評価		【評価項目】	A	B	C	D
		事業の必要性	○			
		事業の効果		○		
		事業の効率性		○		
		【自己評価の根拠】 4 つの図書館は、年齢を問わず全ての嘉麻市民の「地域の知の拠点施設」としての重要な役割を担っており、その必要性は大きなものがありますので、事業の必要性については A 評価としました。市民一人当たりの貸出冊数は前年度に比べ、3.2%減少しており、残念ながら読書離れの傾向は進んでいます。そんな中、29 年度から図書館のない保育園や学童保育所等へも運行を拡充している移動図書館車においては、貸出冊数が前年度に比べ 17.3%増加しています。昨年に引き続き増加傾向にありますことから、事業の効果は B 評価としています。事業の効率性につきましては、最低限の人員で窓口業務を行い、施設の維持管理にかかる経費についても、できる限りの経費削減を図っていますので、B 評価としています。				
今後の方向性		平成 31 年 3 月に策定した嘉麻市立図書館基本計画に基づき、それぞれの地域の図書館を中心に充実した読書環境を継続的に提供できるよう、市の財政状況を踏まえた計画的な施設整備と資料収集を図ってまいります。				
令和元年度の課題		インターネット利用による資料の予約など、地域の図書館がより身近で利用しやすいものとなるように利用者の利便性の向上を図っていく必要があります。また、安心して利用していただけるよう、山田図書館の整備を進めていく必要があります。				
【評価委員の意見】 ・ 移動図書館はとても良いと思うので、どんどん活用してもらいたい。 ・ 人口減少率と貸出冊数の減少率を比較、検証したことはあるのか。過疎地の嘉麻市で移動図書館の利用が増えていることは良いことだ。借りやすい環境づくりを検討して、もっと成果を上げていただきたい。貸出冊数が減ったことをあまり悲観しないでほしい。 ・ 移動図書館は地域住民に要望をとって出向いてほしい。意向調査をしてほしい。						
教育委員会評価			今回		B	
			(前回)		(B)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(3) 図書館の利用促進

事業名 (予算/決算)	[4 6] 読書活動推進事業（生涯学習課：図書館係） (予算：2,644千円 / 決算：2,631千円)				
目的	おはなし会・講座・読書講演会等、市民の読書活動のきっかけづくりとなる事業を開催し、読書活動の推進及び図書館利用の促進を図ることを目的とします。				
事業内容	・ブックスタート事業・絵本ですくすく講座・定例おはなし会・赤ちゃんタイム ・朝の読書活動支援（小学校）・ブックトーク（小・中学校・土曜未来塾） ・おはなし工作会・夏休みイベント・一日図書館員・職場体験の受入れ ・らくらく読書会・読書講演会・映画会				
平成30年度の課題と取組	【課題等】 子どもから大人までそれぞれの年代に併せた、より魅力的な事業を開催することで、多くの市民に図書館を利用していただくきっかけづくりを行う必要があります。 【課題等への取組】 児童向けおはなし会や夏休み工作会等のテーマを工夫し、子どもが興味ある内容にすることで、より多くの子どもたちの参加をいただきました。また、大人向けイベントにおいても、本と音楽と一緒に楽しむおはなし会を行う等の新しい取組を行い、図書館や本に触れるきっかけづくりを行いました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 図書館利用及び読書活動のきっかけづくりとなる図書館事業は重要ですので、事業の必要性はA評価としました。児童向けおはなし会では平均参加者数も増加傾向にあり、昨年度に引き続き高い水準を維持していることから、図書館利用のきっかけづくりという事業の効果としましてはA評価としております。事業の効率性については、これ以上の経費削減は難しいこと、また他部署と連携を図ることにより、図書館以外でのイベントにおいても本に親しむ機会を設けることができたことからA評価としています。				
今後の方向性	第2次子ども読書活動推進計画に基づき、読書習慣の基礎となる乳幼児期から読書活動を支援する取組みを継続します。また乳幼児期に培った読書習慣が継続されるよう、家庭や地域、学校図書館はもとより、他部署とも連携を深めることで、より幅広い事業を実施していきます。				
令和元年度の課題	他部署との連携を更に深め、図書館以外の場所でも幅広いテーマに沿った事業を行うことにより、これまで図書館を利用されていない方へも本に親しむきっかけづくりを図る必要があります。				
【評価委員の意見】 ・意見は特にありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

(3) 図書館の利用促進

事業名 (予算/決算)	[47] 図書ボランティア養成及び活動支援事業 (生涯学習課：図書館係) (予算：35 千円 / 決算：5 千円)				
目的	図書館事業の推進に必要な図書ボランティアの養成、活動支援を行うことを目的とします。				
事業内容	新規ボランティアの養成及び既存ボランティアの支援並びに嘉麻市図書ボランティア連絡協議会の活動支援を行っています。 ・読書ボランティアスキルアップ研修 ・読書ボランティア養成講座 ・嘉麻市図書ボランティア連絡協議会（総会、研修会開催支援等）				
平成 30 年度の課題と取組	【課題等】 地域との協働による図書館運営や図書館応援ボランティアの活動に対する理解を深めていただくための啓発活動を行い、多くの研修参加者の獲得を図る必要があります。 【課題等への取組】 読書ボランティア養成講座として、これまでは読書活動を中心に行ってきましたが、地域の図書館としてより身近に感じていただけるよう、図書資料の装備や補修等の研修会を開催しました。参加者の皆様には研修会後も図書館応援ボランティアとして図書資料補修等でご協力いただいております。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 子どもの読書活動を促進するためには、地域のボランティアの協力が欠かせないことから、事業の必要性はA評価としました。読書ボランティアスキルアップ研修はボランティア活動をされている皆様のご希望等伺いながらテーマを決め、研修後にはおはなし会等でも実践いただいていることから事業の効果はA評価としました。事業の効率性としては、外部講師への謝礼もこれ以上の削減は難しいこと、また読書ボランティア養成講座の講師を図書館司書が行うことにより更なる経費削減を図ったことからA評価としました。				
今後の方向性	ボランティアの皆様のご意見を伺いながら、読書活動に活かせるスキルアップに向けた支援を継続していきます。また、ボランティアと図書館とが協働する、地域に開かれ、地域に根差した図書館運営を目指します。				
令和元年度の課題	地域との協働による図書館運営に向けての様々な支援と啓発活動を行うことにより、図書館応援ボランティアの継続的な活動に向けての環境づくりを図る必要があります。				
【評価委員の意見】 ・意見は特にありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策5 体力及び運動能力向上の推進

(1) スポーツによる地域の活性化

事業名 (予算/決算)	[48] スポーツコミュニティ創造事業 (スポーツ推進課：プロジェクトK・スポーツ推進係) (予算：10,118千円 / 決算：8,968千円)				
目的	スポーツと健康運動を通じて、市民一人ひとりの潜在的能力の向上を図るとともに、地域における市民の主体的な活動を促進し、地域力が向上することを目的とします。				
事業内容	スポーツの社会的意義の重要性を広めるとともに、スポーツを通じた地域の主体的かつ継続的な取組みを促進するため次の事業を実施します。 ①スポーツ推進委員・指導者を派遣します。 ②スポーツに関する身近な情報を提供します。 ③スポーツサークルの設立を支援します。 ④誰もが参加できるスポーツ教室を開催します。				
平成30年度の課題と取組	【課題等】 スポーツ出前講座を通じたコミュニティ活性化事業の拡充が課題です。講座の回数や内容など支援内容の枠組みを定め、生涯学習課や高齢者介護課、健康課と連携した事業を展開していく必要があります。 【課題等への取組】 嘉麻市社会福祉協議会のふれあい・いきいきサロン取り組み団体を対象に出前講座を実施しました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 国や福岡県のスポーツに関する計画においても、スポーツによる地域社会の再生が重要施策として位置づけられていますので、事業の必要性はA評価としています。コミュニティ活性化事業の拡充が図れたことと65歳以上の男性を対象とした悩み解消トレーニング教室を新たに取り組み、男性のスポーツ機会の増加が図れましたので、事業効果・効率性もA評価としています。 ・スポーツ指導参加者数 885人（運動能力アップ親子塾：4回95人、学童保育所出前講座：22回544人、サロン出前講座：平日5回97人、土日7回106人、その他の派遣事業：2回43人） ・嘉麻市スポーツ情報ホームページアクセス数 月平均4,084 ・コミュニティ育成支援団体数 7団体 ・各種教室参加者数 2,051人（健康運動教室：95回1,344人、リズムカルフィット：32回605人、産後ママのリフレッシュケア：8回43人、悩み解消トレーニング：12回59人） ※人数は延べ人数				
今後の方向性	地域の主体的なスポーツ活動を促進し、地域コミュニティの活性化を目的として、引き続き広報嘉麻と嘉麻市スポーツ情報ホームページを活用し、スポーツの魅力を伝えとともに、スポーツ推進委員と地域活動指導員の指導スキルの向上を図りながら、より地域に密着した取り組みを展開します。				
令和元年度の課題	コミュニティ活性化事業実施団体の増加を図るとともに、団体の自主的な活動の促進が課題です。				
【評価委員の意見】 ・意見は特にありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(B)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策5 体力及び運動能力向上の推進

(1) スポーツによる地域の活性化

事業名 (予算/決算)		[49] スポーツ大会誘致・スポーツ大会支援事業 (スポーツ推進課：施設管理運営係) (予算： ー 千円 / 決算： ー 千円)					
目的		スポーツに関係する多くの人が嘉麻市を訪れ、スポーツを行い、観るとともに地域の人々と交流し、本市の豊富な自然環境と観光資源に触れ、親しんで帰ってもらうことで、地域活性化につなげることを目的とします。					
事業内容		スポーツ大会やスポーツ合宿の機会を活用するため、関係機関と連携して特産品販売などPRの場を設け、交流人口の増加と地域の活性化につなげます。また、大会の支援を行い、市民の運営や企画への参加を促します。					
平成30年度の課題と取組		【課題等】 8月と10月に嘉穂総合体育館をホームアリーナとして福岡県初の日本フットサルリーグ（Fリーグ）チーム、ボルグバレット北九州の試合が開催されます。今後は関係機関と連携し、社会体育施設を活用したさらなる交流人口の増加に努めます。 【課題等への取組】 8月5日、8月19日、10月7日にFリーグ、ボルグバレット北九州の試合を開催しました。またスポーツ大会開催の際には、お弁当の斡旋を行ったほか、11月18日に開催された全九州高等学校駅伝競走大会の支援を行いました。					
事務局 自己評価		【評価項目】		A	B	C	D
		事業の必要性		○			
		事業の効果		○			
		事業の効率性		○			
		【自己評価の根拠】 スポーツ大会や合宿の誘致、スポーツ大会の支援は、市民にスポーツを「観る」機会を提供し、スポーツへの興味や理解を深めることで、市民がスポーツに参加「する」契機となる役割を果たす必要性の高い事業です。また、大会、合宿の誘致や大会の支援を行うことによって、交流人口の増加や地域に経済波及などの効果をもたらし、スポーツを通じた地域づくり、地域の活性化に繋がることが期待できます。平成30年度は、Fリーグ、ボルグバレット北九州の試合を始め、フットサル県リーグ、テコンドー大会、九州高等学校駅伝競走大会等のスポーツ大会の開催、陸上、サッカーの合宿を誘致し、交流人口は19,804人、大会参加者数は12,132人となり、目標とする大会・合宿による市外利用者数（交流人口）12,000人、支援大会の参加者数7,700人を大きく上回りました。					
今後の方向性		九州大会及び県大会レベルのスポーツ大会や合宿の誘致の推進を行い、市民のスポーツに対しての意識を高めるとともに、スポーツの魅力に触れることができる機会の充実を図り、スポーツ交流の充実に努めていきます。					
令和元年度の課題		昨年開催されたFリーグ、ボルグバレット北九州の試合では、周知が不十分であったため、今年度は、ポスター掲示やHPに掲載する等広報活動の充実に努めます。またあわせて、関係機関と連携を強化し、地域の活性化を図っていくことが課題です。					
【評価委員の意見】 ・市外の団体よりも、市民の方が優先的に利用できるシステムを考えていただきたい。							
教育委員会評価				今回		A	
				(前回)		(A)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策5 体力及び運動能力向上の推進

(2) スポーツ環境の整備

事業名 (予算/決算)	[50] スポーツ環境創成事業 (スポーツ推進課：プロジェクトK・スポーツ推進係) (予算：402 千円 / 決算：402 千円)				
目的	家庭や学校、自然の中など身近な場所での運動を進め、「市内のいたるところがスポーツ環境であること」という意識改革を目的とします。				
事業内容	自然豊かで文化性に満ちた市内の環境を再発見するとともに、ジョギング、ウォーキングなどの手軽な運動に最適な運動環境を整備し、情報提供を行うことで市民の利用を促進します。 また、子どもの成長を促し心に刺激を与えるような環境づくりを目指し、全国でも例のないアイデアに満ちたスポーツ環境施設を創成します。				
平成 30 年度の課題と取組	【課題等】 イベント参加者だけではなく、継続的なウォーキング等実施者の増加が課題です。ウォーキング等のコースの増設を図るとともに、市内の都市公園等においてもウォーキング等ができるよう、案内看板の設置、情報提供の充実を図ることが必要です。 【課題等への取組】 コースは熊ヶ畑地区と碓井地区の 2 か所でイベントを実施しました。サルビアパーク内に公園周辺のコース案内看板を設置しました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 アンケートによると市民の 30%は「スポーツをしていない」と回答しています。その内、50%は「時間不足」、30%は「機会不足」と回答しています。また、社会体育施設の利用者の固定化を解消するためにも、身近な場所で簡単に行える運動の機会の提供は重要であり、必要性はA評価としています。新たなコースによるウォーキングイベントを 2 回開催し、参加者は延べで 19 人でした。また、サルビアパーク内に公園周回のコース案内看板を設置することにより、ウォーキング等の環境を整備しました。ウォーキング人口の増加を図るためには更なる環境の整備、情報提供の充実が必要ですので、事業の効果・効率性はBとしています。				
今後の方向性	社会体育施設や歴史・文化資産と自然環境を有機的に結合することにより、新たなスポーツ環境を発掘し、身近な場所で簡単に行える運動の機会を提供するため、引き続きウォーキング等のコースを作成し、イベントの開催や情報の提供を行います。				
令和元年度の課題	イベント参加者だけではなく、継続的なウォーキング等の人口増加が課題です。				
【評価委員の意見】 ・ウォーキングコースは、山とかトレッキングを絡めていったら良いと思う。 ・歴史文化遺産と自然環境を有効的に結合させて、スポーツ環境を創るというのは、新しい試みで良いことだと思う。もっと参加者の間口を広げるためには、もう少し知的好奇心をくすぐることがとても大事だと思う。人から直に説明を受けなくても、掲示板やアプリでQRコードを読み込めば情報が得られるなど、そういうものが整備されれば、より一層参加者が増えるのではないかな。それぞれの担当が連携して取組んでいただきたい。					
教育委員会評価		今回		B	
		(前回)		(B)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策5 体力及び運動能力向上の推進

(2) スポーツ環境の整備

事業名 (予算/決算)	[5 1] 社会体育施設管理運営事業 (スポーツ推進課：施設管理運営係) (予算：154,850 千円 / 決算：150,193 千円)				
目的	市民のニーズに応じた、より快適なスポーツ活動の場を提供することを目的としています。				
事業内容	スポーツ施設の効果的かつ効率的な管理運営と、市民ニーズに対応するため施設の整備などの検討を行い、適正化を図ります。				
平成 30 年度の課題と取組	【課題等】 老朽化している施設について、平成 30 年度に策定予定の個別施設見直し計画をもとに、施設の利用状況等を勘案しながら適切な補修・改修を計画的に行っていく必要があります。 【課題等への取組】 平成 30 年 1 月に行政経営推進本部で決定した「公共施設見直し計画」を受け、具体的な実施計画を定めた「嘉麻市個別施設見直し計画」を策定するにあたり、見直し対象施設となった社会体育施設について、個別施設ごとの見直し内容の検討を行いました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 社会体育施設は、市民の誰もが身近に楽しみながら、健康づくり、体力作りができるスポーツ活動の拠点施設として効果的であり、またスポーツによる交流人口を生みだす必要性の高い事業です。平成 30 年度体育施設の利用者数は 426,349 人と目標の 418,000 人を大きく上回りました。 施設の管理については、大隈小学校の跡地についての利活用が決定したことに伴い、大隈グラウンドの用途廃止を行いました。施設の補修・改修については、施設全体が老朽化しているため、利用状況等を踏まえ計画的に行いました。				
今後の方向性	市民が安全に安心してスポーツ活動が行えるよう、改修や備品等の更新など施設の整備を促進し、市民のニーズに応じた適正な管理を計画的に行っていくよう努めていきます。				
令和元年度の課題	施設全体の老朽化が進んでいるため、利用状況を踏まえながら施設ごとの修繕計画を作成する必要があります。				
【評価委員の意見】 ・意見は特にありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し

■主要施策5 体力及び運動能力向上の推進

(3) 生涯スポーツの推進

事業名 (予算/決算)		[52] プロジェクトK事業 (スポーツ推進課：プロジェクトK・スポーツ推進係) (予算：4,308千円 / 決算：3,677千円)				
目的		乳幼児から高齢者、障がい者に至るすべての市民を対象に、脳科学、認知科学などに基づいたコーディネーショントレーニングを導入することにより、体力・運動能力の発達だけでなく、知的能力の発達、情緒的な安定や創造性豊かな人格形成等を図ることを目的とします。				
事業内容		すべての市民に対応できるコーディネーショントレーニングのプログラムを構築し、その普及を行います。				
平成30年度の課題と取組		【課題等】 中学校に対するプログラムの普及が課題です。中学校保健体育科教員等に対する研修会の充実を図ることが必要です。 【課題等への取組】 中学校を対象とした荒木名誉教授によるコーディネーショントレーニング指導者研修会は年2回実施しました。1回目は小中学校教員合同による1日研修、2回目は稲築中学校における荒木名誉教授による公開授業を実施しました。				
事務局 自己評価		【評価項目】	A	B	C	D
		事業の必要性	○			
		事業の効果	○			
		事業の効率性	○			
		【自己評価の根拠】 本事業はコーディネーショントレーニングを全ての市民に普及することにより人材育成、さらには地域の活性化に繋げる全国でも類を見ない取組です。特に子どもに対する教育施策の充実、過疎化が進む本市において、定住人口の増加を目指す上で最重要事項ですので、事業の必要性はA評価としています。中学校教員に対する研修会は、小中学校教員合同による1日研修と稲築中学校における公開授業を実施し延べ13人の中学校教員が参加し、中学校への普及も図れていますので事業の効果・効率性についてもA評価としています。 ・研修会 7回実施し延べ339人が参加 ・乳幼児施設への導入 70%（17園中12園）実施 ・小学校への導入 8校実施 ・中学校への導入 研修会実施				
今後の方向性		コーディネーショントレーニングの普及は、各階層の指導者の育成を基本とします。研修会を受講した指導者が継続的に、かつ個別課題に応じて実践できるような取組、また、指導者相互のネットワーク構築を図り、コーディネーション理論とスキルの向上を目指す取組を推進します。				
令和元年度の課題		小学校教員が主体的に取り組むことができるよう新学習指導要領体育編に基づいたコーディネーショントレーニング指導書の作成。 中学生から高齢者、障がい者までの階層に対するトレーニングの普及。				
【評価委員の意見】 ・意見は特にありませんでした。						
教育委員会評価			今回	A		
			(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策5 体力及び運動能力向上の推進

(4) 競技スポーツの推進

事業名 (予算/決算)	[53] 競技スポーツ推進事業 (スポーツ推進課：プロジェクトK・スポーツ推進係) (予算：7,650 千円 / 決算：7,030 千円)				
目的	誰もが、自らの目標に即してスポーツ競技力を伸ばそうとするスポーツ文化を広めるとともに、小・中・高校生からの優れた体力・運動能力、さらには運動学習能力、潜在的能力を豊かに伸ばしていくことを目的とします。				
事業内容	・ 公的な各種スポーツ競技大会を開催します。また、子ども達を対象に、普段、経験したことのないスポーツ体験会を開催します。 ・ スポーツに関心を寄せ、楽しさを見い出すトップアスリートとの交流会を開催します。子ども達のタレント発掘と競技力育成に関わる事業を展開し、全国や世界で活躍できるスポーツ選手の育成に取組みます。 ・ スポーツ指導者、スポーツ推進委員、教員、保育士、一般市民を対象にした身近なスポーツ科学、運動科学、栄養学、コーディネーショントレーニングなどに関する学習会、研修会を開催します。				
平成 30 年度の課題と取組	【課題等】 子どもの競技力向上と指導者の発掘・育成を図るため、荒木式スポーツコーディネーショントレーニング教室を引き続き実施し、事業内容の充実を図ることが必要です。 【課題等への取組】 小学 3 年生を対象とした荒木式スポーツコーディネーショントレーニングは、2 期生を募集し、1 期生と合わせて事業を実施しました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 競技スポーツの発展は、市民のスポーツへの関心や参加意欲を促し、市のスポーツ振興に大いに貢献するものと考えられますので、事業の必要性はA評価としています。荒木式スポーツコーディネーショントレーニング教室は、1 期生 10 人、2 期生 7 人が年 16 回、基礎的なトレーニングを始め、テニス、水泳、バレーボール競技のトレーニングを受講しました。受講した子ども達の競技力の向上及び事業を通じた指導者の育成につながることが期待されますので、事業効果・効率性はA評価としています。 ・ 未経験の競技体験会 カヌー教室 4 回 32 人、ボルダリング教室 27 人 ・ 競技スポーツ教室 バスケットボール教室 57 人、ドッジボール大会 93 人 ・ スポーツ指導者等研修会 7 回 339 人 ※人数は延べ人数				
	今後の方向性	競技人口の増加を目指し、市民のスポーツへの関心や参加意欲を高める事業を推進するとともに、子どもの競技力向上を目指した事業を推進します。			
令和元年度の課題	子どもの競技力向上と指導者の発掘・育成を図るため、荒木式スポーツコーディネーショントレーニング教室を引き続き実施し、事業内容の充実を図ることが必要です。				
【評価委員の意見】 ・ プロサッカーチームとフレンドリー協定を結ぶことを提案したい。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 6 人権尊重精神を育成する教育の推進

(1) 学校教育における人権・同和教育の推進及び支援

事業名 (予算/決算)	[54] 人権・同和教育推進事業（学校教育課：教務係・指導係） (予算：ー 千円 / 決算：ー 千円)				
目的	福岡県人権教育・啓発基本指針及び嘉麻市人権教育・啓発基本指針に基づき、学校教育活動全体を通して、児童生徒が共生の心を身につけるとともに、自分らしさや能力を十分に発揮し、人権問題を主体的に解決していく力を身につけることができるよう指導していきます。				
事業内容	学校における人権教育の指導の充実を図ります。				
平成30年度の課題と取組	【課題等】 教職員の認識を深めるために、部落問題解消の内容で、全教職員を対象にした研修会を実施します。また、教科や領域の中で児童生徒の意識が高まるような授業づくりを推進します。 【課題等への取組】 部落問題解消に対する教職員の認識を深めるために、人権・同和教育研修会を実施しました。また、教科や領域の中で、人権意識を高めるための授業づくりについて指導助言を行いました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 各学校とも人権教育の全体計画に基づき、人権・同和教育の推進に努めました。その教育内容については、今後の指導資料とするため調査を行いました。人権問題、同和問題の認識に世代間の差が見られ、今後、若年の教職員が増加していくことを踏まえ、個別の人権課題について継続的に研修を実施していくようにしました。				
今後の方向性	学校教育活動全体を通して、児童生徒が共生の心を身につけるとともに、自分らしさや能力を十分に発揮し、人権問題を主体的に解決していく力を身につけることができるよう進めます。				
令和元年度の課題	昨年度実施したアンケートの結果を踏まえ、教職員の人権問題、同和問題に対する認識を深め、すべての人の基本的人権を尊重する教育活動を推進することができるよう、全教職員を対象にした研修会を実施します。また、教科や領域の中で児童生徒の意識が高まるような授業づくりを推進します。				
【評価委員の意見】 ・若い教職員が増えてきているということで、今の若い方は同和問題に対する認識があまりないと思う。できれば機会があるごとに研修会への参加を呼びかけていただきたい。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 6 人権尊重精神を育成する教育の推進

(2) 社会教育における人権・同和教育の推進及び支援

事業名 (予算/決算)	[55] 人権・同和教育推進事業（生涯学習課：人権・同和教育係） (予算：2,869千円 / 決算：2,447千円)				
目的	部落問題をはじめ女性、子ども、高齢者、障がい者、アイヌの人々、外国人、H I V感染者、性的少数者等に対する人権課題を解決し、人権尊重社会の実現に向け、嘉麻市人権教育・啓発基本方針に基づき、社会教育における人権・同和教育を一層推進するとともに、市内の各種団体等の協力を得ながら、行政区単位地域研修会、団体・サークル等研修会、企業内人権・部落問題研修会を実施します。また、関係行政機関及び地域活動指導員（人権・同和教育指導員）との連携を行い、社会教育における人権に関する学習を推進します。				
事業内容	嘉麻市の人権・同和教育の推進を図るため、市内各行政区をはじめ、団体・サークル等、企業や市職員の人権・部落問題研修会を実施し、人権・部落問題に関する意識の向上を図っています。				
平成30年度の課題と取組	【課題等】 人権に対する関心を普段から高めていく必要があります。また、講義形式の一方的な学習形態にのみ偏ったりしないよう、内容や手法に一層の工夫と配慮を行うとともに、周知方法を検討する必要があります。 【課題等への取組】 新たに子供向けの人権研修会を実施しました。更に中央公民館係と連携し、人権・部落問題研修会を継続開催することで、周知と学ぶ機会の充実を図りました。また、個別の人権課題に関する研修資料等を作成するなど学習内容の工夫に努めています。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 行政区においては、研修会の趣旨なども丁寧に説明し開催依頼を行っており、人権・同和教育指導員が希望された行政区や団体・サークル等での研修会を継続実施しています。更に公民館分館事業の「ときめき学習」や小学校のゲストティーチャー等として子ども達への人権研修を行うことや各地区公民館と連携し、市民を対象とした研修会を開催し人権・部落問題について正しい認識と理解を深める機会の充実が図れました。それにより、市民の日々の暮らしや会話の中に人権意識が広がり、差別への気づきに繋がっています。 今後も、関係機関や団体等と連携しながら地域研修会や事業主研修会等を開催し、確かな人権意識を培う人権教育・啓発を推進していきます。				
今後の方向性	市民一人ひとりが部落問題をはじめとする様々な人権問題について、正しい認識と理解を深め、自らの問題として捉えることができ、感性や態度、行動に現れるような学習会や研修会の開催に努めます。				
令和元年度の課題	日常においてお互いの人権を認め合い、人権問題への理解を深めていく必要があります。また、市民の要望に応じた研修内容等の工夫や、あらゆる年齢層の人権に関する多様な学習機会の充実を図る必要があります。				
【評価委員の意見】 ・意見は特にありませんでした。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(B)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 6 人権尊重精神を育成する教育の推進

(2) 社会教育における人権・同和教育の推進及び支援

事業名 (予算/決算)	[56] 人権・同和教育推進少年団体育成事業 (生涯学習課：人権・同和教育係) (予算：4,859 千円 / 決算：4,673 千円)				
目的	解放子ども会を開催し、解放子ども会に参加する一人ひとりが、人権・部落問題について正しい認識と理解を深める活動を推進します。また、合宿研修会などの開催により、小中学生が寝食、学習、野外体験活動を共にすることで、連携や交流を促進します。				
事業内容	稲築・碓井地区において解放子ども会を開催し、人権・部落問題についての学習を行うとともに、嘉麻市解放子ども会として合宿研修会や発表会等に取り組んでいます。 (1) 解放子ども会活動 (2) 解放子ども会合宿研修会 (3) 解放子ども会社会見学会 (4) 解放子ども会フィールドワーク (5) 解放子ども会発表会				
平成 30 年度の課題と取組	【課題等】 児童生徒が学んだことや感じたことを自分なりの考えを持って発表できるように支援する必要があります。また、その想いを保護者の方にも参観して聞いていただくことが課題です。 【課題等への取組】 学校、家庭及び地域が一体となって活動計画等の協議を重ね、意欲をもって学習や子ども会活動が出来るよう継続して支援を行いました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性			○	
	【自己評価の根拠】 解放子ども会を開催するとともに、小学校ではリーダー会、中学校では隣保館学習、さらに、社会見学やフィールドワークを行いました。活動を通じて人権・部落問題についての正しい認識と理解を深め、仲間づくりや基礎学力の向上を図ることができました。また、発表会においては、1 年間の総括を行いながら、次年度の学習に繋げる振り返りの場を設けました。しかし、子どもたちの自主性・主体性を育む機会のひとつである合宿研修会は、企画・運営方法を協議していく中、明確な方針がまとまらず、本年度は見送ることとなりました。				
今後の方向性	部落差別をはじめあらゆる差別をなくすことを主たる目的として活動する団体が企画運営する解放子ども会事業としての活動に補助金を交付し、子どもたちの人権感覚の涵養を図ります。				
令和元年度の課題	関係団体等と情報共有を行い、子どもたちの人権感覚が高まる活動となるよう継続して小・中学校と協議、連携し取組む必要があります。				
【評価委員の意見】 ・意見は特にありませんでした。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 6 人権尊重精神を育成する教育の推進

(2) 社会教育における人権・同和教育の推進及び支援

事業名 (予算/決算)		[57]人権・同和教育推進団体育成事業 (生涯学習課：人権・同和教育係) (予算：1,371千円 / 決算：1,324千円)					
目的		解放学級及び日常生活で文字の読み書きに不自由している人々を対象にした識字学級を開催し、学級生一人ひとりが、人権・部落問題について更なる正しい認識と理解を深める学習や学級活動を推進します。					
事業内容		稲築・碓井・嘉穂地区において、解放学級を開催し、人権・部落問題についての学習を行うとともに、碓井地区においては、識字学級を開催することにより文字の読み書き学習を支援しています。					
平成30年度の課題と取組		【課題等】 年齢層が高くなっているため、若年層の参加が課題です。 【課題等への取組】 指導者や地域の代表者で構成している代表者会において参加しやすい場づくりや学習内容の検討等を行いながら、継続して協議を行っているところです。 地域住民の自主的・主体的な学習活動を支援するため、地域や学校と協力体制のもと指導者自身のスキルアップを図っています。					
事務局 自己評価		【評価項目】		A	B	C	D
		事業の必要性		○			
		事業の効果			○		
		事業の効率性			○		
		【自己評価の根拠】 解放学級及び識字学級を開催することで、学級生一人ひとりが、人権・部落問題について更なる正しい認識と理解を深めることが出来ました。また、昨年度から開催している合同閉講式で学級を代表しての実践報告を行い、他学級の学習活動を知り、自らの学級の次年度への学びに繋がるとともに、お互いの理解と心の繋がりを深め、共に学びを深める大切さを認識することができました。識字学級においては、学級生それぞれが学習内容を深めることができるよう支援を行ったことにより、日常生活に即した学習の場と機会の確保を図り、その時々で求められる学習をサポートすることができました。					
今後の方向性		部落問題をはじめとする様々な人権問題は社会の変化に伴い多様化しており、それらの厳しい差別の現実に対処できる力量を養うため、一人ひとりが継続して自ら気づき、考え、行動する力を培う学習活動を継続して支援します。					
令和元年度の課題		学級生の自主的・主体的な学習活動を学校や学級代表者と協力して支援を行い、地域のニーズを掘り起こし、学習内容の工夫・充実を図る必要があります。					
【評価委員の意見】 ・意見は特にありませんでした。							
教育委員会評価				今回		B	
				(前回)		(B)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 7 市民文化の創造

(1) 美術に関する創造的活動の推進

事業名 (予算/決算)	【58】文化芸術活動推進事業（生涯学習課：美術館係） (予算：ー 千円 / 決算：ー 千円)				
目的	市民が美術館を身近なものに感じ、美術館で文化芸術を鑑賞・創作する機会及び展示発表に活用できる場の充実を図ります。				
事業内容	主体的な活動を行う美術団体等の展示活動を支援し、人々に様々な芸術鑑賞の機会を提供しています。 また、アトリエでの創作活動を支援するとともに、学校や地域と連携し、子どもたちの芸術鑑賞や創作活動を支援します。				
平成 30 年度の課題と取組	【課題等】 今後も学校や地域等と連携し、子どもたちの芸術鑑賞や創作活動の機会を提供します。 【課題等への取組】 学校と連携し、鑑賞学習の充実に努め、小中学校では特別企画展の関連出前授業を行いました。地域のまつりやイベント、嘉麻市内各地区公民館や分館に出向き、創作体験の場を設け、学校外での学びを支援しました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性	○			
	【自己評価の根拠】 鑑賞学習のため市外も含め10校で延べ16回（865人）が美術館を訪れ、美術館の役割、マナー、鑑賞方法や作品の魅力、織田廣喜について学びました。特に児童画展では、4校（355人）が、優れた作品を鑑賞し合いました。児童画展への入館者は多く、昨年の2.1倍1,030人でした。 特別企画展の関連事業として、稲築中学校、稲築東中学校で出前授業を実施。美術部員などによる手作りの作品は、企画展開催中、サロンに展示しました。碓井小学校でも関連する絵本の読み聞かせ等を行いました。 地区公民館や分館で開催される「ときめき学習」等に6回出向き、子どもたちの創作体験を支援しました。また、「ゆめまつり」や「子どもフェスタ」では、創作体験コーナーを設け、美術館紹介パネルも展示しました。「ゆめまつり」では62人、「子どもフェスタ」では42人の参加があり、美術館や活動についてPRが出来ました。 団体等による11展覧会では6,748人が様々な作品を鑑賞しました。				
	今後の方向性	関係団体の展示活動や学びを支援し、芸術作品鑑賞の機会を提供するとともに、学校や地域等と連携し、子どもたちの芸術鑑賞や創作活動を支援します。			
令和元年度の課題	今後も学校や公民館に美術館の活用を呼びかけ、子どもたちの芸術鑑賞や創作活動の充実に支援します。				
【評価委員の意見】 ・意見は特にありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(B)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 7 市民文化の創造

(1) 美術に関する創造的活動の推進

事業名 (予算/決算)	[59] 美術館運営管理事業（生涯学習課：美術館係） (予算：36,880 千円 / 決算：34,677 千円)				
目的	市民が文化芸術活動や憩いの場として、美術館及び公園を快適かつ安心して利活用できるよう、施設等の維持管理及び運営を行うとともに、美術館ならびに実施事業の周知を図ります。				
事業内容	美術館及び隣接する公園の維持管理を図るとともに、適切な環境の中で収蔵、展示作品の保存管理を行います。				
平成 30 年度の課題と取組	【課題等】 今後も継続して施設及び収蔵展示作品の維持管理に努め、活用を図ります。 【課題等への取組】 継続した維持管理の他に、資料閲覧室のカーペット張替や駐車場の区画線引き直し、公園にある石のモニュメントの点検等を行いました。 収蔵作品の維持管理のため収蔵庫 2 の燻蒸、収蔵絵画の修復やデジタル撮影、収蔵庫内の清掃や温湿度管理等に努めました。 職員を対象とした防虫菌（IPM）研修を行い、取組に対する意識の統一、情報共有に努めました。 美術館の活用を図るため、ホームページに利用案内ページを追加しました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 適切な維持管理により、安心して作品鑑賞や個人、団体による作品展示、アトリエでは創作活動が行われ、鑑賞学習でも活用されました。また、公園は遠足で利用され、合わせて作品鑑賞を行う学校もありました。今後も美術館や公園の周知に努め、利用を図ることが必要です。 収蔵庫の清掃や燻蒸、虫菌被害等を防ぐための職員研修や利用団体へ有機物の持込禁止について説明を行うなど、作品保存のための取組を行いました。今後も取組を継続し、利用団体へ周知を図る必要があります。 作品の保存と活用を図るため 4 点を修復し、一部、カビの除去を行い、作品の記録と管理のため 30 点のデジタル撮影を行うことができました。 収蔵庫の温湿度管理のため空調管理委託業者と密に連絡を取り合い、調整を図りました。今後も連絡を取り合い調整に努める必要があります。 空調設備の修理等を行っていますが、今後、施設、設備の老朽化などに伴う改修など、施設の運営管理についての検討が必要です。				
今後の方向性	美術館ならびに公園の維持管理と運営に努め、周知と利用を図るとともに、展示収蔵作品の維持管理に努めます。				
令和元年度の課題	今後も継続して施設及び収蔵展示作品の維持管理に努めるとともに、施設の運営管理についても検討が必要です。				
【評価委員の意見】 ・ 織田廣喜作品のレプリカを貸出しすることで、それを見た方が美術館に足を運んでくれるきっかけになると思うので、貸出方法などをホームページに載せていただきたい。 ・ デジタル保管という形については、インターネットで作品を見るという動きもあるので、活用してPRをしてほしい。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(B)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 7 市民文化の創造

(1) 美術に関する創造的活動の推進

事業名 (予算/決算)	[60] 企画展事業 (生涯学習課：美術館係) (予算：5,963 千円 / 決算：5,873 千円)				
目 的	著名な作家や郷土ゆかりの作家の作品展示及び優れた芸術作品の鑑賞機会を提供することにより、こころ豊かな感性を育み文化の向上を図ります。				
事業内容	春のコレクション展2018 (4 月 1 日 : 1 日間) 嘉飯山の画家たち展 (7 月 7 日～ 8 月 19 日 : 38 日間) なばたとしたか絵本原画展 (9 月 1 日～10 月 8 日 : 32 日間) 福岡県美術展覧会筑豊展 (10 月 30 日～11 月 4 日 : 18 日間) アートキッズ展 (12 月 14 日～ 1 月 27 日 : 32 日間) 春のコレクション展2019 (3 月 1 日～ 3 月 31 日 : 27 日間)				
平成 30 年度 の課題と 取組	【課題等】 企画展の周知と学校での活用を図ります。 【課題等への取組】 ポスターやチラシの配布、広報や新聞、ホームページ等で事業の周知に努めました。「絵本原画展」の関連事業として小中学校で、「春のコレクション展2019」の関連事業として小学校で出前授業を行いました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	「嘉飯山の画家たち展」は、作家の選定が難しく高齢化、大作の減少、若手作家の新たな表現傾向もあり、展覧会の再考が必要です。 「絵本原画展」来館者2,541人(1日平均79人)の約40%が中学生以下の子どもたちで、ライブペインティング、サイン会も好評でした。今後も子どもから大人までが楽しめる展覧会の内容にしたいと思います。 「県展」来館者は、実行委員による周知活動等もあり、昨年より約11%増えました。特に写真部門の来館者が多く、身近になった写真撮影への関心の高さが窺え、創作意欲を高めることができました。毎回、近隣の小・中・高校や美術部へもポスター、チラシを配布していますが利用がないのが現状です。 収蔵作品を活用し、「コレクション展」「アートキッズ展」を開催しており、今後も更なる周知に努める必要があります。「コレクション展」では織田廣喜ならびにその作品の魅力を伝えるため、「織田廣喜紙芝居」の読み聞かせを碓井小学校で行いました。今後も図書館とも連携し、紙芝居の活用を図ります。				
	今後の 方向性	当館のコレクションとも関連し、常設展との回遊性を持たせることができ、より多くの、そして幅広い世代の来館者が増える展覧会を企画し、周知を図る必要があります。			
令和元年度 の課題	例年、同じ部門の展示となる県展では、周知方法の再考が必要です。				
【評価委員の意見】 ・ ネームバリューのある方の企画展をお願いしたい。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(B)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 7 市民文化の創造

(1) 美術に関する創造的活動の推進

事業名 (予算/決算)	[61] 美術教育普及事業（生涯学習課：美術館係） (予算：312 千円 / 決算：218 千円)				
目的	楽しみながら創作活動を行う機会や場の提供を行い、芸術への興味を深め、豊かな感性と表現力を育むことにより、美術教育の充実を図るとともに、子どもたちの美術活動の充実と、美術館の活動に関わる美術館ボランティアの人材育成を図ります。				
事業内容	美術館講座の開催 ・アートキッズ 全14回（6月～1月）小学生 受講生24人 ・近畿大学連携事業 2日間（10月）小学生 受講生14人 ・美術講座 全5回（7月～11月）18歳以上 受講生27人 ボランティア事業（会議、研修会、教育普及事業の学習補助） 登録者10人				
平成30年度の課題と取組	【課題等】 講座内容の見直しと新たなボランティアの募集と研修に努め、人材育成を図ります。 【課題等への取組】 アンケートを参考に、子どもや成人を対象とした講座を開講しました。また、まつりやイベントにて就学前の子どもから大人まで参加できる美術体験コーナーを設置しました。 広報誌や新聞でボランティア募集を行い、近隣の高校、大学にも依頼しました。また、ボランティアを対象に子どもとの関わり方を学ぶため、研修会を行いました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果	○			
	事業の効率性		○		
	【自己評価の根拠】 「アートキッズ」の受講生は、アーティストやボランティアの大人や高校・大学生と触れ合いながら創作活動ができました。鑑賞した作品と創作作品を並べた「アートキッズ展」では、受講生によるギャラリートークを行い、保護者と作品を楽しみました。保護者に行ったアンケートでは「図工や夏休みの自由課題を最後まで頑張れるようになりました」「絵が苦手だったが楽しそうに取り組んでいた」「家でも工作やお絵描きをよくするようになった」等の感想があり、子どもたちの変化が窺えました。また、「近畿大学連携事業」では、デザイン、情報学科の大学生と触れ合いながら、嘉麻市をPRする「光る洋服」作りを体験し、2日目の夜に行ったファッションショーで保護者に作品を見せることができました。作品はアクロス福岡でも展示しました。 「美術講座」の参加者は、5館の学芸員から各館の特徴やコレクション、絵画、工芸品などの見方、楽しみ方を学び、芸術文化へ興味と関心を深めました。 ボランティア「織喜」に新規登録者3名をむかえ、「アートキッズ」や「ゆめまつり」で子どもたちをサポートし、研修会では発達特性について学び、子どもへの対応に活かしました。また、「アートキッズ」には延べ15人の高校生と、延べ12人の大学生がボランティアで参加し、子どもたちの創作活動をサポートしました。				
今後の方向性	今後も市民に創作活動を行う機会や場の提供を行い、美術館や芸術に関心のある人材を育てます。				
令和元年度の課題	講座は準備から実施に至るまで多くの時間を有します。他に地域での事業も実施しているため、今後、内容をどうするか検討を要します。				
【評価委員の意見】 ・意見は特にありませんでした。					
教育委員会評価		今回	A		
		(前回)	(B)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 7 市民文化の創造

(2) 文化財の保護・継承・活用

事業名 (予算/決算)	[62] 郷土の歴史文化を守る事業（生涯学習課：文化財係） (予算：9,676 千円 / 決算：9,327 千円)				
目的	市内に残る多様な文化財を郷土の「たから」として後世に伝え、適切な活用が図れるように、文化財の保護管理に努めることを目的とします。				
事業内容	・文化財保護審議会の運営 ・指定文化財等の維持管理 ・指定文化財への補助金交付 ・埋蔵文化財の事前審査 ・各種文化財の調査				
平成30年度の課題と取組	【課題等】 文化財の保護と活用にかかるマスタープランの策定が課題です。 【課題等への取組】 マスタープランでは、指定文化財・未指定文化財を含む地域の文化財について一体的な保護と活用が望まれます。本年度は未指定文化財等を含む山野地区の文化財調査を実施しました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性			○	
	【自己評価の根拠】 ・文化財保護審議会：年3回 ・指定文化財等の維持管理：4件 ・指定文化財への補助金交付：3件 ・埋蔵文化財事前審査：書類審査178件、工事立会2件、試掘調査3件 ・嘉穂地区遺跡群の出土品再整理1,261点及び写真・図面類のデジタル化 ・未指定文化財等を含む山野地区の文化財調査（踏査・聞き取り調査） 上記の事業内容については、予定通りに実施できましたので、事業の効果は「B」評価、しかし、課題であるマスタープランの策定については教育アクションプランの指標通りに進まず、事業の効率性は「C」評価としました。				
今後の方向性	旧市町間での文化財保護にかかる格差が解消されていない現状を踏まえ、中長期的な保存活用計画を策定し、計画に基づいた文化財保護行政を行います。				
令和元年度の課題	文化財の保護と活用にかかるマスタープランの策定が引き続き課題です。				
【評価委員の意見】 ・文化財の指定を受けたときは、広報等で周知してほしい。 ・職員の少ない中で調査は難しいと思うが、個人所有の文化財を残すようにお願いしたい。 神社等も含め、建物を解体するときに、文化財等も一緒に壊されている。					
教育委員会評価		今回		B	
		(前回)		(B)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 7 市民文化の創造

(2) 文化財の保護・継承・活用

事業名 (予算/決算)	[63] 郷土の歴史文化を伝える事業（生涯学習課：文化財係） (予算：2,888千円 / 決算：2,795千円)				
目的	市内に残る多様な文化財の活用を図り、郷土への誇りと愛着を培うとともに、郷土の歴史・文化のPRに努めることを目的とします。				
事業内容	・ 沖出古墳特別公開（春・秋）：4/14・15、10/20・21 ・ 「いのちの花」丸木俊原画展：6/2～24 ・ 「語り、伝える 戦争の話」（第7回）：8/4 ・ 朗読&音楽劇「青い目の人形によせて」：12/12 ・ 団体、学校などへの学習支援、講師派遣等 ・ 嘉麻の遺跡ブックレットVOL.2『巨大集落の誕生』発刊				
平成30年度の課題と取組	【課題等】 歴史ボランティアの育成が課題です。 【課題等への取組】 市の現況に応じたボランティア育成を検討するために、九州国立博物館（7月）、八女市岩戸山歴史文化交流館（9月）、行橋市教育委員会（2月）へ先進地視察を実施しました。先進地視察を踏まえて、令和元年度は歴史ボランティアサークルの立ち上げに取組みます。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性			○	
	【自己評価の根拠】 ・ 沖出古墳特別公開：261名（教育アクションプラン目標値：300名） ・ 「いのちの花」丸木俊原画展：192名 ・ 「語り、伝える 戦争の話」：25名（教育アクションプラン目標値：40名） ・ 朗読&音楽劇「青い目の人形によせて」：235名（上山田小・熊ヶ畑小児童他） ・ 学習支援、講師派遣等：28件（教育アクションプラン目標値：25件） ・ 嘉麻の遺跡ブックレットVOL.2『巨大集落の誕生』発刊：3000部 なお、事業の広報が後手にまわり、事業の効率性は「C」評価としました。				
今後の方向性	歴史ボランティアサークルを立ち上げると共に、学校等への学習支援、観光関係など、他部署等との連携強化を推進していきます。				
令和元年度の課題	歴史ボランティアの育成が引き続きの課題です。				
【評価委員の意見】 ・ 意見は特にありませんでした。					
教育委員会評価		今回	B		
		(前回)	(A)		

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

■主要施策 7 市民文化の創造

(2) 文化財の保護・継承・活用

事業名 (予算/決算)	[6 4] 郷土の歴史文化拠点施設活用事業（生涯学習課：文化財係） (予算：9,469 千円 / 決算：9,365 千円)				
目的	効率的な施設運営を図り、学校教育及び社会教育並びに郷土の歴史・文化の P R に貢献することを目的とします。				
事業内容	・ 歴史民俗資料展示・保管施設（4 館 2 室）の維持管理 ・ 収蔵資料（埋蔵文化財を除く）の台帳整備 ・ 収蔵資料の貸出 ・ 収蔵資料の模写等（画像資料の利用） ・ 寄贈資料の受け入れ				
平成 30 年度の課題と取組	【課題等】 稲築ふるさと資料室の資料整理及び台帳作成が課題です。 【課題等への取組】 稲築ふるさと資料室の資料整理に取組めるよう、臨時職員の配置換えを実施し、資料移管の準備を整えました。また、合わせて稲築ふるさと資料室収蔵資料の移管先として、嘉穂ふるさと交流館の収蔵資料を整理し、収蔵スペースを確保しました。				
事務局 自己評価	【評価項目】	A	B	C	D
	事業の必要性	○			
	事業の効果		○		
	事業の効率性			○	
	【自己評価の根拠】 ・ 歴史民俗資料展示・保管施設（4 館）の利用者数：6,688 名 ・ 収蔵資料の台帳整備：110 点（教育アクションプラン目標値：300 点） ・ 資料貸出件数：5 件 ・ 資料模写等（画像資料の利用）件数：14 件 ・ 寄贈資料件数：3 件 課題であった稲築ふるさと資料室の資料整理も予定通りに実施できたことなどから、事業の効果は「B」評価、しかし、収蔵資料の台帳整備が教育アクションプランの目標値に及ばず事業の効率性は「C」評価としました。				
今後の方向性	現在の組織体制に見合った規模の施設とするために、施設の統廃合及び機能の見直しについて検討します。				
令和元年度の課題	嘉穂ふるさと交流館収蔵資料の移管先を検討する必要があります。				
【評価委員の意見】 ・ 嘉穂ふるさと交流館は建物が古いので、それを文化財として残すことはできないか。					
教育委員会評価		今回		B	
		(前回)		(B)	

A：期待どおり、B：概ね期待どおり、C：課題あり、D：事業の見直し要

5. 全体評価結果

(1) 全体評価結果

事務局の自己評価と点検評価委員の意見を踏まえた教育委員会としての評価結果は、下記のとおりとなりました。(全64事業 ※前年度70事業)

	前年度 教育委員会評価		本年度 教育委員会評価
A：期待どおり	45事業 (64.3%)	⇒	46事業 (71.9%)
B：概ね期待どおり	25事業 (35.7%)	⇒	18事業 (28.1%)
C：課題あり	0事業 (0.0%)	⇒	0事業 (0.0%)
D：事業の見直し要	0事業 (0.0%)	⇒	0事業 (0.0%)

評価の方法は事業完了度ではなく、目標達成度及び第三者評価の観点から総合的に評価を行いました。また、今後の方向性及び令和元年度の課題につきましても、あわせて検討いただきました。

前年度の評価と比べると、期待どおりの「A評価」が64.3%から71.9%（7.6%の増）、概ね期待どおりの「B評価」が35.7%から28.1%（7.6%の減）、課題ありの「C評価」及び事業の見直し要の「D評価」はありませんでした。また、本年度から第4次教育アクションプランの事業実施期間となり、第3次教育アクションプランと比べて、事業数は70事業から64事業に減少しましたが、A評価の事業の割合が増加していることから、第3次教育アクションプランにおける点検・評価を踏まえ、事業を効果的かつ効率的に進めてきた成果であると考えます。

(2) 主要施策ごとの評価及び課題

■主要施策1 少人数指導等による学力向上

「少人数指導推進事業」の取組により、小学校において、標準学力検査（NRT）における平均偏差値は、平成26年度以降は標準偏差値50を上回り、2年連続で51を上回っています。中学校においても、標準学力分析検査の結果は年々上昇しており、標準偏差値に対して「-1.2」にまで差を縮めました。また、全国学力・学習状況調査においては、全ての教科において全国平均正答率を上回る学校はありませんでしたが、平成22年度以降すべての教科区分で数値が上昇し、全国平均との差を縮めています。しかしながら、学校間や学年間、学級間の格差がみられることから、今後は、嘉麻市学力向上全体構想における具体策の浸透、徹底を図っていく必要があります。

「嘉麻市学力向上強化プロジェクト事業」においては、学力向上推進員の学校への指導及び支援体制を継続していきます。また、嘉麻市土曜未来塾では、通塾した児童生徒の保護者からの「自宅で勉強する習慣がついた」、「勉強する時間が増えた」などのアンケート結果から、家庭学習の習慣化ができつつあります。さらに、土曜未来塾で学ぶ児童生徒の様子が、塾の運営にあたる学力向上推進員の学校への指導

と関連付けられ、効果的な教育活動を展開できる土壌が培われています。今後も、児童生徒のさらなる参加を促すとともに、個に応じた学習支援により、学力の基礎基本の定着と家庭学習の習慣化を図ります。

■主要施策2 個性又は能力を育成する学校教育の充実

「特別支援教育総合推進事業」や「補助教員配置事業」については、適切な人員配置により、児童生徒の教育的ニーズに応じた支援や指導が図られています。今後ますますその必要性が増えていくことが予想されますので、配置した人員の効果的な活用について工夫していくとともに、個別の教育支援計画及び指導計画に基づき、通常学級と支援学級との連携した支援の充実を図る必要があります。また、特別な支援を要する幼児・児童の早期発見・早期対応に努め、一貫した継続性のある支援に向けた巡回相談の充実や、子育て支援課の就学相談窓口の機能化を図ります。

「情報教育推進事業」では、ICTを活用した授業改善や教職員の情報活用能力の向上が図られてきました。さらに、新学習指導要領の内容であるプログラミング教育や情報モラルなど、これからの情報教育について意識を高めることができました。今後は、プログラミング教育に関する授業づくりに繋がる研修の実施と支援が必要となります。

「学校施設整備事業」については、中学校区単位で小中一体型校舎を整備することとしており、優先度の高い碓井中学校区及び稲築中学校区について、速やかに計画的かつ効率的な施設整備計画を策定していきます。

■主要施策3 豊かな人間性及び志をもってたくましく生きる力を培う教育の推進

不登校問題等の解決に向けた体制の充実を図るため、「教育相談推進事業」や「学校支援相談員配置事業」を実施し、不登校傾向の児童生徒に対する早期対応や関係機関との連携協力による組織的な取組により、不登校の児童生徒数は、平成29年度が46名で、平成30年度は52名と増加しています。今後も関係機関との連携を強化し、不登校問題の解消に努めていきます。

また、「適応指導教室（れすとぴあ）推進事業」では、通級生徒全員が学校への復帰はできませんでしたが、中学3年生の1名の在籍生徒が、一時的に学校復帰した時期もありました。このことから、不登校児童生徒にとっては必要な事業であり、今後も継続して実施する必要があります。

家庭・地域の教育力を高める支援体制の充実については、子ども会などの地域団体が学校の授業の中で地域の活動を紹介する場を設けるなど、学校と地域の人々が交流できるような事業を支援するとともに、青少年の健全育成のため、教育研究所や警察署・補導委員など関係機関と連携・協力しながら、子どもの安心・安全を守り、青少年のいじめや非行防止に努めていきます。

家庭教育支援の充実を図るため、他の課・係と連携し、子育て中の親子が繋がりを作ることができる連続講座を実施し、子育て家庭の孤立防止に努めました。また、子どもの基本的な生活習慣の確立を図るため、メディアに関する啓発活動を行い、実施回数及び対象者数は、平成29年度201回（6,722人）、平成30年度201回（7,749人）であり、対象者数の増となっています。今後も継続した取組を推進することにより、家庭の教育力向上に努めていきます。

男女共同参画教育の推進については、家庭や地域などでの日常生活における固定的性別役割分担意識の解消に繋がるような取組を行うとともに、男女共同参画推進課と連携・協力し、男女共同参画についての説明や情報提供などの啓発に努めます。

また、平成30年度は、平成29年度に作成した「嘉麻市男女共同参画推進条例 学ぼうそして行動しよう」の冊子を活用した授業づくりの手引きを作成しました。

■主要施策4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進

社会教育関係機関、団体との連携・協力体制の整備については、社会教育関係団体が自主運営・自主活動できるように支援するとともに、継続して活動や事業が行われるよう連携・協力していく必要があります。

学習機会の提供及び学習成果の活用促進については、青少年の生活体験や自然体験などを通して、社会性・自主性等を身につけた地域リーダーとなる人材の育成に努めます。また、ボランティア人材バンクを活用した学校と地域の連携強化と、地域活動の活性化を図ります。「わたしのエッセイ事業」では、応募数が平成29年度の1,438点から1,572点に増加し、子どもたちの表現力の向上に繋がっており、今後も様々な体験活動の機会提供に努めていく必要がありますが、機構改革等により事業に携わる人員が削減となった場合、事業内容及び支援方法の見直しや、事業の縮小・廃止も検討する必要があります。

公民館事業については、平成30年3月に策定した嘉麻市公民館基本方針及び基本計画に基づき、将来に向けた公民館の在り方について検討を行い、各地域における公民館活動の活性化を図るための組織の再構築を図ります。

地域住民が公民館活動を通して自ら地域の課題を考え、地域貢献の場をつくる等の支援をすることにより、それぞれの地域において核となる人材や団体が育ち、地域に密着した公民館活動が図れるよう努めます。

図書館運営事業については、嘉麻市にふさわしい図書館の在り方(将来像)について、その設置数及び運営方法について新たな視点に立って検討を行い、平成31年3月に「嘉麻市立図書館基本計画」を策定しました。この計画に基づき、それぞれの地域の図書館を中心に充実した読書環境を継続的に提供できるよう、市の財政状況を踏まえた計画的な施設整備と資料収集を図りつつ、地域の図書館がより身近で利用しやすいものとなるように、利用者の利便性の向上に努めていきます。

■主要施策5 体力及び運動能力向上の推進

スポーツを通じて地域の主体的な活動を促進する「スポーツコミュニティ創造事業」では、スポーツ推進委員や地域活動指導員によるスポーツ教室等により延べ2,936人の市民に対して運動指導が実施できました。特に平成30年度から開始した「ふれあい・いきいきサロン」に対するスポーツ出前講座では、身近な公民館等でスポーツにふれあいということで、市民相互の交流を促進することができています。今後も、実施団体の増加を図るとともに、団体の自主的な活動へ繋げていくことが課題です。

荒木秀夫名誉教授のコオーディネーショントレーニングをすべての市民に普及することにより、人材育成、地域の活性化、さらには定住人口の増加を目指す「プロジェクトK事業」では、公立保育所全3カ所と私立保育園・幼稚園14園中9園、小学校全8校がトレーニングを導入し、乳幼児から小学校児童までは体系的な導入が図れています。平成30年度は中学校への普及を課題として、中学校の保健体育科教員に対する研修会の充実を図りました。今後も、保育士や小学校教員が日常の指導現場でコオーディネーショントレーニングを実施できるよう指導者の育成を進めながら、乳幼児や小学校児童への事業の充実を図るとともに、中学生から高齢者、障がい者までの階層に対するトレーニングの普及が課題です。

また、スポーツ大会やスポーツ合宿を誘致し、交流人口の増加と地域の活性化を目指す「スポーツ大会誘致・スポーツ大会支援事業」では、交流人口が目標の 12,000 人を大きく超え 19,804 人となりました。今後も、施設の維持改善を図りながら有効活用を促進し、交流人口の増加を目指します。

■主要施策 6 人権尊重精神を育成する教育の推進

人権・同和教育の推進を図るため、行政区、各種団体等や事業主を対象とした研修会や、各地区公民館と連携して市民を対象とした研修会を継続実施しました。

更に人権に対する関心を普段から高めていくため、公民館分館事業の「ときめき学習」等で子ども達への人権研修を実施し、周知と学ぶ機会の充実を図りました。

今後も、部落問題をはじめとする様々な人権問題について、正しい認識と理解を深める機会や場の提供に努めます。

■主要施策 7 市民文化の創造

美術館では学校と連携し、鑑賞学習や出前授業などで、児童生徒の芸術鑑賞や創作活動の充実を図りました。また、地域イベントや各地区公民館や分館に出向き、学校外での創作活動を支援しました。今後も学校、地域と連携し、子どもたちの芸術鑑賞や創作活動の支援に努めます。また、継続して展示室 5 の活用を図り、人々に様々な芸術作品の鑑賞の機会を提供します。

美術館や隣接する琴平公園を安心して快適に利活用出来るよう、適切な維持管理や収蔵作品の保存活用に努めました。今後も継続して適切な施設の維持管理を行い施設の利活用と、作品の保存管理に努める必要があります。

絵本原画展では、来館者の 4 割が中学生以下の子どもたちで、幅広い世代の人々が作品を楽しみました。「コレクション展」や「アートキッズ展」では、収蔵作品の活用を図りました。コレクション展では織田廣喜の魅力を伝えるため「織田廣喜紙芝居」の読み聞かせを小学校でも行いました。今後は当館のコレクションとも関連し常設展と回遊ができ、幅広い世代の人々が楽しむことができる展覧会を企画し、関係課と連携し周知を図る必要があります。

「アートキッズ」では、美術館ボランティアの他に高校・大学生の支援を受け、様々な創作活動に取り組みました。子どもが図画工作に興味と関心を抱くようになったとの感想があり、学びの成果がうかがえました。美術講座では 5 館の学芸員から各館のコレクションや絵画、工芸品などの見方、楽しみ方を学び、芸術文化への興味と関心を高めました。今後も学びの場を提供する必要があります。

文化財の保護・継承・活用にあたって、「郷土の歴史文化を守る事業」では、文化財の調査研究や指定文化財の維持管理等を行っています。今後は、計画行政への転換を図るため文化財の保護と活用にかかるマスタープランの策定に努めます。

「郷土の歴史文化を伝える事業」では、学習支援や講師派遣に多くの依頼がありました。今後は、他部署等との連携事業をさらに充実させ、歴史ボランティアの育成に努めます。「郷土の歴史文化拠点施設活用事業」では、既存 6 施設の維持管理に努めています。しかし、各施設の活用状況に格差が生じているため、各施設機能の明確化と見直しが必要です。次年度は、嘉穂ふるさと交流館の資料移管先を検討します。

(3) おわりに

平成30年度からは、4期目となる「第4次教育アクションプラン」における実施事業のそれぞれの数値目標を達成するため、計画的かつ効果的に着実に推進している状況です。また、点検評価委員の皆様からは、自己評価に対するご意見やご指摘等をいただき、これらを各事業の今後の取組に反映させ、本市教育行政の更なる発展に役立てていきたいと思ひます。

最後に、点検評価に参加・ご尽力くださいました委員の皆様に心よりお礼を申し上げ、点検・評価報告書のまとめとさせていただきます。

《資料》

嘉麻市教育委員会点検評価実施要綱

[平成21年嘉麻市教育委員会要綱第6号]

[平成23年嘉麻市教育委員会要綱第4号]

[平成24年嘉麻市教育委員会要綱第4号]

[平成26年嘉麻市教育委員会要綱第4号]

[平成26年嘉麻市教育委員会要綱第6号]

[平成27年嘉麻市教育委員会要綱第5号]

(趣旨)

第1条 この要綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）

第26条及び嘉麻市教育基本条例（平成22年嘉麻市条例第16号。以下「条例」という。）

第7条の規定に基づき、嘉麻市教育委員会（以下「教育委員会」という。）が実施する事務の点検及び評価について、必要な事項を定めるものとする。

(点検評価事項)

第2条 教育委員会は、前年度の教育委員会の事務の管理及び執行の状況について、次に掲げる事項の点検及び評価（以下「点検評価」という。）を行う。

(1) 教育委員会の会議の実施状況等に関すること。

(2) 教育委員会の主要な施策に関する執行の状況及びその成果に関すること。

(点検評価の方法)

第3条 教育委員会は、点検評価を実施するに当たり、別に定める評価表により教育委員会事務局において、その所管する事務事業等の自己評価を行わせるものとする。

2 教育委員会は、前項の自己評価の結果について評価の客観性を確保するため、嘉麻市教育委員会点検評価委員（以下「評価委員」という。）を設置する。

3 教育委員会は、評価委員の意見を踏まえ、教育委員会の会議において最終的な点検評価を行う。

(評価委員)

第4条 評価委員は、10人以内とし、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱する。

(1) 嘉麻市議会議員

(2) 嘉麻市PTA連合会委員

(3) 嘉麻市社会教育委員

(4) 嘉麻市公民館運営審議会委員

(5) 嘉麻市立図書館協議会委員

(6) 嘉麻市立織田廣喜美術館運営協議会委員

(7) 嘉麻市スポーツ推進委員

(8) 嘉麻市文化財保護審議会委員

(9) その他教育委員会が適当と認める者

(公表の方法)

第5条 教育委員会は、条例第7条の規定により点検評価の結果に関する報告書は次に掲げる方法で公表する。

- (1) 嘉麻市公式ホームページに掲載
- (2) 報道機関に提供
- (3) 教育委員会での閲覧

(庶務)

第6条 点検評価の実施に関する庶務は、学校教育課において処理する。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、点検評価の実施に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この要綱は、平成21年7月8日から施行する。

附 則

この要綱は、平成23年4月5日から施行する。

附 則

この要綱は、平成24年4月1日から適用する。

附 則

この要綱は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成26年10月16日から施行する。

附 則

この要綱は、平成27年4月1日から適用する。

令和元年度嘉麻市教育委員会点検評価委員名簿

(敬称略)

	団 体 名	氏 名
1	嘉麻市議会	出水 貴之
2	嘉麻市PTA連合会	山本 真之
3	嘉麻市社会教育委員の会議	鈴木 淑文
4	嘉麻市公民館運営審議会	春口 勇介
5	嘉麻市立図書館協議会	伊藤 久枝
6	嘉麻市立織田廣喜美術館運営協議会	寺崎めい子
7	嘉麻市スポーツ推進委員	山根 芳文
8	嘉麻市文化財保護審議会	氷室 崇元

嘉麻市教育委員会点検・評価報告書

(平成30年度事業分)

発 行 嘉麻市教育委員会 学校教育課
〒820-0392 福岡県嘉麻市大隈町7-3-3 番地
T E L 0948-57-3198

発行年月 令和元年8月